

科目名	科目担当代表教員	ページ数
病理学	瀧山 晃弘	2
臨床検査概論	合田 悟	7
精神看護学実習	井上 仁美	11
老年看護学実習	辻 幸美	16
看護過程論	竹之内 優美	21
看護倫理	中島 孝一	26
成人看護学援助論Ⅳ	尾形 裕子	30
成人看護学援助論Ⅳ	尾形 裕子	35
成人看護学援助論Ⅴ	尾形 裕子	40
成人看護学援助論Ⅴ	尾形 裕子	45
老年看護学援助論Ⅱ	辻 幸美	50
小児看護学援助論Ⅱ	菅原 美保	55
小児看護学援助論Ⅱ	菅原 美保	60
母性看護学援助論Ⅱ	多賀 昌江	65
母性看護学援助論Ⅲ	福士 晴佳	70
母性看護学援助論Ⅲ	福士 晴佳	75
精神看護学援助論Ⅱ	井上 仁美	80
看護マネジメント論	坂東 奈穂美	85
看護研究Ⅰ	佐藤 洋子	90
看護研究Ⅱ	坂東 奈穂美	95
キャリア形成	木村 悠里菜	103
看護学英語文献講読	榎本 常子	107
看護実践マネジメント実習	坂東 奈穂美	111
在宅看護学実習	鹿内 あずさ	116
家族看護学	鹿内 あずさ	121
在宅看護学援助論Ⅱ	小橋 拓真	125
リスクマネジメント論	坂東 奈穂美	130
看護栄養学	松本 信子	134
看護病態治療学Ⅰ	下岡 良典	138
看護病態治療学Ⅱ	横山 佳世	143
看護病態治療学Ⅲ	尾形 裕子	148
成人看護学の展開Ⅰ	尾形 裕子	153
母性看護学の基礎	小堀 ゆかり	158
精神看護学の基礎	井上 仁美	163
看護ヘルスアセスメント	木口 幸子	168
看護ヘルスアセスメント	木口 幸子	173
老年看護学の基礎	高岡 哲子	178
小児看護学の基礎	佐藤 洋子	183

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	2300
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
看護学に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」および「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。 「免疫学」「医学概論」「人体構造学I」「人体構造学II」「人体機能学I」「人体機能学II」と関連し、「病態・治療学Ⅰ」「病態・治療学Ⅱ」「病態・治療学Ⅲ」「臨床検査概論」の基礎となる。							
授業の概要							
病気の原因やその発症のメカニズムについて、細胞傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、炎症と感染症、免疫異常とアレルギー、腫瘍など、原因や機序別に分けて学習する。また、各臓器の代表的な疾患についても学ぶ。							
到達目標							
1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。 2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。 3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。 4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じてオンライン授業を実施する。							
ICT活用							
Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論1. 病理学とは 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。 総論2. 細胞傷害 細胞傷害の種類やその機序を学ぶ。また傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	教科書のpp.14～52を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	総論3. 先天異常 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形の種類、染色体異常とその代表的疾患を学ぶ。	教科書のpp.53～64を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	総論4. 循環障害 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	教科書のpp.65～75を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	総論5. 炎症 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。	教科書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	総論6. 免疫異常とアレルギー 免疫と免疫系の細胞、アレルギー反応、免疫不全症や自己免疫疾患などについて学ぶ。	教科書のpp.88~102を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	総論7. 感染症 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、宿主の反応などについて学ぶ。	教科書のpp.103~117を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	総論8. 腫瘍 腫瘍の概念や分類、その形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断などについて学ぶ。	教科書のpp.118~134を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	各論1. 「心臓の疾患」「脈管系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.136~166を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	各論2. 「造血系・リンパ系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.167~185を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	各論3. 「呼吸器系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.186~212を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	各論4. 「消化管の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.213～237を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	各論5. 「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.238～254を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	各論6. 「泌尿器系の疾患」「男性生殖器系の疾患」「女性生殖器系と乳腺の疾患」「内分泌系の疾患」について学ぶ。	教科書のpp.255～323を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	各論7. 「筋・骨格系の疾患」「皮膚の疾患」「脳・神経系の疾患」「眼と耳の疾患」「全身性疾患」について学ぶ。	教科書のpp.324～398を読んでおく。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	まとめと修了テスト	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト、第15回の修了テストなど。詳細は授業中に伝える。	

その他	0	なし
教科書		
クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版		
参考文献		
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進(1) 病理学 第5版／大橋健一ほか著／医学書院		
履修条件・留意事項等		
特記事項なし。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		臨床検査概論				ナンバリング	2348
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	合田 悟						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている」とと特に関係がある科目である。また、「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームの在り方と看護師の役割を理解できている」こととも関係する。 疾病の原因および治療における基礎的な知識を身につけ、看護に必要な臨床検査の原理や方法、実際の臨床現場の注意点、患者に与える負担等について学ぶ科目である。 「免疫学」「人体構造学Ⅰ」「人体構造学Ⅱ」「人体機能学Ⅰ」「人体機能学Ⅱ」と関連し、疾病の成り立ちを理解する基礎となる。							
授業の概要							
臨床検査は診断確定の重要な要素であり、症状が出現する前に正常状態からの逸脱を発見することも可能である。また治療経過の確認にも大きな役割をもつことから、これらを理解し知識を習得する。 臨床検査の意義、原理、方法、患者に与える負担を学ぶ。							
到達目標							
主な臨床検査について、検査の意義、原理、検査方法が分かる。 検体の適切な取り扱いができる。 臨床検査と看護の関係が分かる。 臨床検査に関して患者へ適切な説明ができる。							
授業の方法							
パワーポイントや印刷物を用いて説明する。 必要に応じて確認テストやレポート作成を行う。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

医療機関で臨床検査業務に関わった経験を活かして講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義中および講義後に質問を受け付けます。回答はその都度あるいは次回の講義時に全体に対して行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	一般検査 ・臨床検査の概要と意義を理解する。 ・尿検査、尿糖、ケトン体、尿酸、クレアチニン、便検査、便潜血を理解する。	教科書の臨床検査の基本を読みまとめておくこと。(90分)	尿検査の項目、注意事項のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物検査 ・感染症の概要と検査法を理解する。 ・細菌、ウイルス、リケッチア、真菌、グラム染色、生化学的性状、培養検査を理解する。	教科書で微生物の種類をまとめておくこと。(90分)	疾病の原因微生物のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	血液学的検査 ・血液の概要と意義を理解する。 ・赤血球、白血球、貧血、血球代謝、血液凝固検査、血小板数、ヘマトクリット、ヘモグロビンを理解する。	解剖生理学の教科書で血液を復習しまとめておくこと。(90分)	血液検査の項目のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	生化学的検査 ・生化学の意義と検査法を理解する。 ・電解質、タンパク、糖代謝、非タンパク性窒素、脂質、有機化合物を理解する。	教科書の臨床化学検査を読みまとめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			

第5回	酵素・機能検査 ・酵素の概要と意義を理解する。 ・アミラーゼ、リパーゼ、乳酸脱水素酵素、クレアチンキナーゼ、腎機能、肝機能、炎症マーカーを理解する。	解剖生理学の教科書で泌尿器系を復習しまとめておくこと。(90分)	疾病と検査値の関係のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	生理検査 ・循環器系の基礎と検査法を理解する。 ・心電図、呼吸機能、脳波を理解する。	解剖生理学の教科書で循環器系を復習しまとめておくこと。(90分)	心電図の原理、基本のまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第7回	輸血検査・病理検査 ・血液型の概要と意義を理解する。 ・病理学検査の概要と意義を理解する。 ・ABO式血液型、HLA型、血液製剤、GVHDを理解する。	教科書の輸血検査を読みまとめておくこと。(90分)	輸血検査の手順を復習しまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	・検査の進め方を理解する。 ・検査データの判読を理解する。 ・検査時の医療事故の予防を理解する。 ・遺伝子の基礎を理解する。 ・DNA(遺伝子、染色体)、遺伝子疾患について理解する。 まとめの確認テストを行う。	解剖生理学の教科書で細胞を復習しまとめておくこと。(90分)	遺伝子の基本と遺伝子疾患を復習しまとめを行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト、まとめの確認テスト、レポートや欠席届等の提出物、受講態度等を総合的に判断する。	
その他	0	なし。	
教科書			

新体系看護学全書 臨床検査 池田斎 メヂカルフレンド社

参考文献

特に指定しない。

履修条件・留意事項等

欠席した場合は、速やかな欠席届の提出が必須である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		精神看護学実習				ナンバリング	4820
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	井上 仁美、藤村 恵理子						
授業の位置づけ							
精神障害をもつ人の理解を深め、看護実践をととして、治療場面や療養生活の過程における看護の役割を理解し、基礎的な看護を実践する能力を養う。精神看護学概論、精神看護学健康障害論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱと関連し、これらの科目を履修していることが条件であり、これら科目における学習の総まとめの科目である。DPの「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」と特に関係がある科目である。また、「人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている」「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している」「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし行動や態度をとることができる」と関係する科目である。							
授業の概要							
精神科病棟で一人の患者を受け持ち、セルフケアについてのアセスメントを行うことで生活者としての理解を深め、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実施・評価する。オレム・アンダーウッドのモデルを用いて精神障害をもつ人を多面的に理解し看護過程を展開する。精神障害をもつ人を一人の人として先入観なく接し、生きづらさに共感し寄り添うことで看護者として誠実で真摯な態度やあり方を学ぶ。またプロセスレコードを用いて援助の人間関係の技法を習得する。							
到達目標							
1. 精神障害をもつ人を全人的に理解したうえで対象者について述べるができる。 2. 援助的に人間関係を築き発展させることができる。 3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開することができる。 4. 精神障害をもつ人やその家族に対する、療養生活の支援方法、リハビリテーション活動 の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べるができる。 5. 学生としての役割および責務を果たす言動をとることができる。							
授業の方法							
精神看護学臨地実習要項に沿って学習を進める。 実習中にカンファレンスを実施し、積極的にディスカッションを行いながら、自身の考えを発言し自己開示をおこなう。 実習中または最後に学生によるプレゼンテーションを行い学びを共有する。 感染状況によっては臨地での実習が学内または遠隔に変更になることがある。その場合は、事前にお知らせする。							
ICT活用							
Google Classroomを随時使用して学習を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

本科目は精神保健医療において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

毎日の実習記録および看護過程の記録の指導は、提出後にそのつどコメントを教員が返し、カンファレンスの中では互いの議論をととして、随時フィードバックを行う。また、臨地実習終了後に教員と評価面接を行い、実施および評価についてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回			
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習要項を参照すること。 出席日数の3分の1以上の欠席および遅刻・早退がある場合は評価の対象とならないことがある。 実習記録物の提出は指示した期限内に提出していることが必要である。 評価基準は実習目標の達成度(実習評価表)、実習記録、実習態度などから総合的に担当教員が評価する。	

その他	0	なし。
教科書		
新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第5版 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版		
参考文献		
宇佐美しおり 鈴木啓子 パトリシア・アンダーウッド:オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開 第2版 ヌーヴェルヒロカワ 関連科目で使用したレジュメ等を活用する。そのほか適時、各自で文献を検索するなどして活用することが望ましい。		
履修条件・留意事項等		
精神看護学実習を履修するのに必要なすべての単位を修得していること。 事前に行われる実習オリエンテーションでの説明や注意事項をよく理解し、実習要項を熟読して臨地実習に臨んでください。 臨地実習は患者様はじめ、実習指導者や多くの方々の協力があって行うことができます。 欠席や遅刻・早退をすると患者様は非常に心配されたり自責感をもつことがあります。体調管理に注意し、実習に専念できるよう準備してください。 精神看護学実習は、対象者の方と1対1で真摯に誠実に向き合い、寄り添うことではじめて看護を提供し患者様に還元できます。 これらの学習をとおして、学生自身も自分を振り返り、成長ができるような実習にすることが望まれます。		
備考欄		
感染状況によっては学内実習または遠隔での実習になる可能性がある。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		老年看護学実習				ナンバリング	4814
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	4
担当教員	辻 幸美、高岡 哲子、初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目は特にDP「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる」「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」「自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる」に関連した老年看護学領域に位置づけられている。老年看護学領域に関連した全ての学習の集大成として、今まで得た知識を統合し、老年者を対象とした看護を実践的に学ぶ。							
授業の概要							
本実習では、老年者を対象とした看護過程を実践し、自らの援助や既存の理論、科学的根拠について検証する。学習内容は、老年者1事例を受け持ち、看護過程の展開をすること、そして、自らが行った看護について考察することである。本実習は、老年看護学の学習を統合する機会である。よって、既習学習との関連を意識し、看護を論理的に検証することを目指して学習する。							
到達目標							
1.老年者の尊厳を守る意味を考察できる。 2.老年者を取り巻く生活環境(家族を含む)を考察できる。 3.認知症高齢者の生活からその人らしい生活支援を考察できる。 4.看護の複雑な場面や関係性の中で経験した看護実践をふりかえり、自らの看護観や人間観を精選する。 5.自らの看護的思考をわかりやすく他者に伝える。							
授業の方法							
詳細については老年看護学実習要項を参照							
ICT活用							
Google classroomの使用							
実務経験のある教員の教育内容							

高岡は総合的な病院で、辻は脳神経外科系病院で、初見は循環器病棟、訪問看護ステーションでの勤務経験を活用して実習指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された記録は全て確認して返却する。また、必要時、個人指導を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細については老年看護学実習実習要項を参照	なし	なし
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			
第4回	なし	なし	なし
担当教員			

第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	0	なし	

その他	100	詳細については老年看護学実習実習要項を参照
教科書		
①北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ②上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		
必要時提示する。		
履修条件・留意事項等		
オリエンテーションで提示する。 提出物の類似、代筆、虚偽の報告などは全て不正とみなす。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護過程論				ナンバリング	3402
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	竹之内 優美、木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のディプロマ・ポリシーの中で特に「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」に関連している。看護学の理論や科学的根拠に基づき、対象者の健康課題を解決するための基礎的な能力を獲得する。ここでの学びは、2年次後期に開講される基礎看護学実習Ⅱにおける学修内容につながる。さらに、今後の専門科目における思考のプロセスの基盤を身につけるうえで重要な位置づけとなる科目である。							
授業の概要							
看護過程とは「対象であるその人にどのような援助が望まれているのかを考え、それを実践する」いわば看護実践の科学的方法論である。なぜ看護過程が必要なのか、その意義について、看護とは何かや健康の概念との関連から理解する。その上で、看護過程展開に必要な能力についても理解し、事例を使用して具体的な看護展開方法について学ぶ。「看護を系統的に具体的に考えていく」思考過程を通じて、看護の視点を持って対象の健康問題をとらえ援助を展開できる基礎的技能を習得する。							
到達目標							
1. 看護過程の概念および看護実践における看護過程活用の意義を説明できる。 2. 看護過程の概要および各構成要素について説明できる。 3. 事例をもとに、看護過程の各段階を展開することができる。 4. 看護実践の記録としての看護記録について説明できる。							
授業の方法							
1. 講義:パワーポイントと配布資料を用いて説明する。 2. 個人ワーク:講義内容を活用しながら、アセスメント・全体像(全体関連図)・看護計画を個々に作成する。 3. グループワーク:個人ワークをもとに、グループ内で意見交換しながら内容を深めて看護計画を作成する。 4. ロールプレイ:グループで作成した看護計画について、一場面を設定し、看護援助の実施・評価を行う。 5. グループ討論:看護計画および実施の内容について、グループ発表およびグループ間討議を行う。							
ICT活用							
Google class roomを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

看護師としての病院勤務経験をもとに、看護過程の事例の具体的な状況を示しながら教授する。

課題に対するフィードバックの方法

1. 毎回、授業終了時に授業内容に関する疑問、質問をFormsで受けつけ、次回講義前あるいは次回講義時にフィードバックする。
2. 提出された課題には、随時、コメントをつけて返却する。
3. 必要時、Google class roomを用いてクラス全体へのコメントを返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【コースガイドランス】 【講義】 1) 看護過程とは 2) 看護過程の意義と目的 3) 看護過程とクリティカルシンキング 4) 看護過程の構成要素 5) コードンの機能的健康パターンの活用	シラバスを熟読する 看護過程とはなにか、教科書1. のp.14-19を熟読する。 【60分】	看護過程の意義とクリティカルシンキング、構成要素についてまとめる 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第2回	【講義】 1) コードンの機能的健康パターンの各クラスターの概要 2) 情報収集・整理の方法 【個人ワーク】 1) 各パターンの情報整理	事例情報を熟読する 情報収集・整理について教科書 2. p91を熟読する。 【90分】	事例の情報整理を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第3回	【講義】 1) 病態関連図の描き方 2) アセスメントの視点:健康知覚—健康管理パターン 【個人ワーク】 1) 病態関連図の作成 2) 健康知覚—健康管理パターンの分析解釈	情報整理の課題提出に向けて準備する。 健康知覚—健康管理パターンについて教科書2. p92-93を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第4回	【講義】 1) アセスメントの視点:栄養—代謝パターン 2) アセスメントの視点:排泄パターン 【個人ワーク】 (藤長、竹之内、木口、佐々木、渡辺、赤坂) 1) 必要エネルギー量および必要水分量の計算 2) 栄養—代謝パターンの分析解釈 3) 水分出納バランスの計算	栄養—代謝パターン、排泄パターンについて教科書2. P92-93を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第5回	【講義】 1) アセスメントの視点:活動—運動パターン 2) アセスメントの視点:睡眠—休息パターン 【個人ワーク】 1) 活動—運動パターンの分析解釈 2) 睡眠—休息パターンの分析解釈	クラスタ1～3のアセスメント提出に向けて準備する。 活動—運動パターンおよび睡眠—休息パターンについて教科書2.p95-96を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第6回	【講義】 1) アセスメントの視点:認知—知覚パターン 2) アセスメントの視点:自己知覚—自己概念パターン 【個人ワーク】 1) 認知—知覚パターンの分析解釈 2) 自己知覚—自己概念パターンの分析解釈	認知—知覚パターン、自己知覚—自己概念パターンについて教科書2.p96-98を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第7回	【講義】 1) アセスメントの視点:役割—関係パターン 2) アセスメントの視点:セクシュアリティ—生殖パターン 【個人ワーク】 1) 役割—関係パターンの分析解釈 2) セクシュアリティ—生殖パターンの分析解釈	クラスタ4～7のアセスメント提出に向けて準備する。 役割—関係パターン、セクシュアリティ—生殖パターンについて教科書2.p99-101を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第8回	【講義】 1) アセスメントの視点:コーピング—ストレス耐性パターン 2) アセスメントの視点:価値—信念パターン 【個人ワーク】 1) コーピング—ストレス耐性パターンの分析 2) 価値—信念パターンの分析	コーピング—ストレス耐性パターン、価値—信念パターンについて教科書2. P101-102を熟読する。 【90分】	事例の分析解釈を行う。 コメント内容について追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第9回	【講義】 1) 全体像 2) 全体関連図の描き方 3) 看護上の課題の特定 4) 優先順位の考え方 【個人ワーク】 1) 全体関連図の作成	クラスタ4～7のアセスメント提出に向けて準備する。 看護上の課題、優先順位についての教科書1. p37-39を熟読する。 【90分】	コメント内容について追加・修正を行う。 全体関連図を作成する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第10回	【講義】 1) 看護目標(長期目標・短期目標)の設定 2) 看護計画の立案 3) 実施 4) 評価 【個人ワーク】 1) 看護課題リストの作成	看護目標と看護計画、実施、評価についての教科書1. p39-47を熟読する。 【90分】	コメント内容について追加・修正を行う。 看護課題リストと優先順位の根拠を作成する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第11回	【グループワーク】 1)グループで1つの看護課題を取り上げ、看護計画を立案する 2)次回の発表・実践の準備(役割分担や練習)を行う。	グループの看護計画の内容を個々に準備する。 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 グループの計画立案を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第12回	【発表とグループ討議】 ※1組・2組に分ける。 1)各グループの看護計画(1つ)の発表 2)グループ間で意見交換 【グループワーク】 1)質問・意見や他グループの発表からの学を活かし、計画内容を修正する。	11パターンのアセスメントの再提出に向けて準備する。 看護計画のグループ発表準備 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 グループの看護計画を修正する。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第13回	【模擬看護実践】 1)各グループの看護計画内容のデモンストレーション 2)グループ間で意見交換を行う。	看護実践のグループ発表準備 【90分】	個人ワークの記録物の追加・修正を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第14回	【グループワーク】(藤長、竹之内、木口、佐々木、渡辺、赤坂) 1)模擬看護実践をもとに看護計画の評価を行う。	看護実践のグループ発表準備 【90分】	グループの看護計画の評価を行う。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第15回	【科目確認テスト(40点)】 【まとめ】	教科書・講義資料の内容を復習する。 【90分】	最終提出に向けて、看護過程の全記録のまとめをする。 【90分】
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、藤長 すが子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	40% 科目確認テスト 50% 課題提出(アセスメント、全体像、看護課題の抽出、看護目標立案、看護計画立案の各段階と最終提出) 10% グループ発表およびデモンストレーション ※課題の評価基準については、コースガイダンス時に説明する。	

その他	0	なし
教科書		
1. 深井喜代子編(2021). 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I. メヂカルフレンド社 2. 渡邊トシ子編(2011). ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント. ヌーヴェルヒロカワ 3. 山岸節子編(2000). 自分で描ける病態関連図. 照林社		
参考文献		
授業の中で、適宜、参考文献を紹介する。		
履修条件・留意事項等		
・出席時間2/3以上かつ総合評価60%以上の2つの要件を満たした場合に、本科目の単位を認定します。 ・個人ワークの評価対象物において、代筆や盗用などの不正行為があった倍には、D判定となる場合があります。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護倫理《旧々カリ》				ナンバリング	3422
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	中島 孝一						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている(知識・技能)」、「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる(知識・技能)」とも関係がある。							
授業の概要							
看護を実践する上で必要な倫理的な基礎知識及び倫理的意思決定について学ぶ。また、看護実践上で遭遇する倫理的問題について事例を通して検討する。							
到達目標							
1. 看護における倫理の意義と重要性を説明できる。 2. 看護師に求められている倫理的責任と倫理的行動の基準を説明できる。 3. 看護実践上で遭遇する倫理的問題について検討し、自分の意見を述べることができる。							
授業の方法							
・パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で行う。 ・論述式の小テストを行う(全3回)。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

小テストには必要に応じてコメントを返し、次回の授業で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	倫理学の基本的な考え方、倫理とは何か、基本的な倫理理論	教科書2～22ページを読んでおく(90分)	教科書22ページのゼミナール①を行う(90分)
担当教員			
第2回	生命倫理とは何か、生命倫理の歴史、生命倫理の原則、インフォームドコンセント	教科書24～37ページを読んでおく(90分)	優生学の問題点について自分の考えをまとめる。教科書40ページのゼミナール①を行う(90分)
担当教員			
第3回	性と生殖の生命倫理 性に関するさまざまな概念、生殖をめぐる概念、生殖に対する医療的介入の課題	教科書42～54ページを読んでおく(90分)	教科書58ページのゼミナール①について自分の考えをまとめる(90分)
担当教員			
第4回	死の生命倫理 死生観、緩和ケア、ターミナルケア	教科書60～72ページを読んでおく(90分)	教科書72ページのゼミナール①②を行う(90分)
担当教員			

第5回	看護倫理とはなにか 看護倫理の歴史、看護の倫理原則、看護実践上の倫理的概念	教科書96～117ページを読んでおく(90分)	教科書118ページのゼミナール④と⑥を行う(90分)
担当教員			
第6回	専門職の倫理 専門職に求められる倫理、看護職の倫理綱領、倫理綱領と看護実践	教科書120～135ページを読んでおく(90分)	教科書135ページのゼミナール②と③について自分の考えをまとめる(90分)
担当教員			
第7回	倫理的問題へのアプローチ 倫理的問題を議論するための基本的なルール、倫理的問題への具体的なアプローチ法	教科書138～152ページを読んでおく(90分)	教科書162ページのゼミナール①②③を行う(90分)
担当教員			
第8回	事例分析 小児看護における事例分析、精神看護における事例分析、母性看護における事例分析	教科書184～201ページを読んでおく(90分)	検討した事例について、意思決定の仕方となすべき行動についてまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	小テスト	
その他	40	最終レポート	
教科書			

『系統看護学講座・別巻 看護倫理 第2版』/宮坂道夫ほか/医学書院

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学援助論Ⅳ(2組)				ナンバリング	3505
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
成人看護学は概論、援助論、臨地実習の科目で構成されている。概論を基盤として援助論Ⅰ～Ⅲは経過別に看護を学んだ。これらの科目に引き続き、援助論Ⅳはがん疾患に罹患し手術療法を受ける事例の看護過程を展開することにより知識・技術・態度の統合を図り、成人看護学実習Ⅱに繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ」「がん看護学」と連携する。DP「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
がんの特殊性とがん罹患により脅かされる人々の命および生活について理解を深め、がんの病期・治療に応じた患者とその家族への看護について学ぶ。この科目では、がん罹患した成人期にある人が、手術療法を受け退院するまでの、周術期の看護に焦点をあてた看護過程を展開する。胃がん患者が手術療法を受ける事例を設定し、周術期看護のシミュレーション学習を行う。							
到達目標							
1. 事例に対して周術期看護の特性に応じた看護過程の展開ができる 2. 周術期に特徴的な看護技術の実施方法と留意点を述べるができる 3. 設定された看護場面の援助計画を作成し、教員の助言を受けながら適切なケアを行うことができる 4. グループワークで事例の看護を討議できる							
授業の方法							
看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながら、グループワークを中心に行う グループでの学びと自己学習により、周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する 時間内に理解度確認テストを行う							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

がん患者が治療を受ける総合病院で看護を実践した経験のある教員が指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表、周術期の看護過程の特徴、事例紹介(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第2回	援助1;術後の観察 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第3回	援助1;術後の観察 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第4回	援助1;術後の観察 援助計画の検討(グループワーク) 事例の看護過程;アセスメントの解説(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第5回	事例の看護過程;アセスメントの検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第6回	援助1;術後の観察 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第7回	事例の看護過程;全体像・問題リスト、看護計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第8回	援助2;術後の生活援助 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第9回	援助2;術後の生活援助 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第10回	援助2;術後の生活援助 援助計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第11回	援助2;術後の生活援助 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第12回	援助3;術後の生活指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第13回	援助3;術後の生活指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第14回	事例の看護過程;看護計画の実施・評価の作成(講義・グループワーク) 事例の看護過程の解説(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第15回	まとめ(講義) 理解度確認テスト	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度、理解度確認テスト	

その他	0	なし
教科書		
成人看護学概論、成人看護学援助論で使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA- I 看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習I・IIの履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学援助論Ⅳ(1組)				ナンバリング	3505
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
成人看護学は概論、援助論、臨地実習の科目で構成されている。概論を基盤として援助論Ⅰ～Ⅲは経過別に看護を学んだ。これらの科目に引き続き、援助論Ⅳはがん疾患に罹患し手術療法を受ける事例の看護過程を展開することにより知識・技術・態度の統合を図り、成人看護学実習Ⅱに繋がる科目である。「病態・治療学Ⅰ」「がん看護学」と連携する。DP「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
がんの特殊性とがん罹患により脅かされる人々の命および生活について理解を深め、がんの病期・治療に応じた患者とその家族への看護について学ぶ。この科目では、がん罹患した成人期にある人が、手術療法を受け退院するまでの、周術期の看護に焦点をあてた看護過程を展開する。胃がん患者が手術療法を受ける事例を設定し、周術期看護のシミュレーション学習を行う。							
到達目標							
1. 事例に対して周術期看護の特性に応じた看護過程の展開ができる 2. 周術期に特徴的な看護技術の実施方法と留意点を述べるができる 3. 設定された看護場面の援助計画を作成し、教員の助言を受けながら適切なケアを行うことができる 4. グループワークで事例の看護を討議できる							
授業の方法							
看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながら、グループワークを中心に行う グループでの学びと自己学習により、周術期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する 時間内に理解度確認テストを行う							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

がん患者が治療を受ける総合病院で看護を実践した経験のある教員が指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表、周術期の看護過程の特徴、事例紹介(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第2回	援助1;術後の観察 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第3回	援助1;術後の観察 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第4回	援助1;術後の観察 援助計画の検討(グループワーク) 事例の看護過程;アセスメントの解説(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第5回	事例の看護過程;アセスメントの検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第6回	援助1;術後の観察 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第7回	事例の看護過程;全体像・問題リスト、看護計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第8回	援助2;術後の生活援助 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第9回	援助2;術後の生活援助 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第10回	援助2;術後の生活援助 援助計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第11回	援助2;術後の生活援助 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第12回	援助3;術後の生活指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第13回	援助3;術後の生活指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第14回	事例の看護過程;看護計画の実施・評価の作成(講義・グループワーク) 事例の看護過程の解説(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第15回	まとめ(講義) 理解度確認テスト	指示された事前課題を行う(90分)	指示された課題を行い期日までに提出する(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度、理解度確認テスト	

その他	0	なし
教科書		
成人看護学概論、成人看護学援助論で使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA- I 看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.1消化器 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習I・IIの履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学援助論Ⅴ(2組)				ナンバリング	3506
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
成人看護学は概論、援助論、臨地実習の科目で構成されている。概論を基盤として援助論Ⅰ～Ⅲは経過別に看護を学んだ。これらの科目に引き続き、援助論Ⅴは慢性疾患に罹患し生活の再構築が必要な事例の看護過程を展開することにより、知識・技術・態度の統合を図り、成人看護学実習Ⅰに繋がる科目である。「病態・治療学Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
慢性的な経過をたどる健康障害をもつ人の理解を深め、病状・治療に応じた看護について学ぶ。この科目では、慢性疾患に罹患した成人期にある人が、疾病や治療の影響によりセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる状況を設定し、看護過程を展開する。							
到達目標							
1.事例に対して慢性期看護の特性に応じた看護過程の展開ができる 2.事例のセルフケア行動と生活の再構築に向けた援助の方法を述べることができる 3.指定された場面の援助計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる 4.グループワークにより事例の看護過程を討議できる							
授業の方法							
看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う グループでの学びと自己学習により、成人看護学・慢性期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

慢性疾患患者が治療を受ける総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
課題の解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 慢性期の看護過程の特徴、事例紹介、病態アセスメント(講義)	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第2回	事例の看護過程 アセスメントの検討1(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第3回	事例の看護過程 アセスメントの検討2(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第4回	事例の看護過程 アセスメントの検討3 援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第5回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第6回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第7回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第8回	助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第9回	事例の看護過程 アセスメントの解説と共有(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第10回	事例の看護過程 全体像・問題リスト、看護計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第11回	援助2:退院指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、柗本 常子		
第12回	援助2:退院指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、柗本 常子		
第13回	援助2:退院指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、柗本 常子		
第14回	援助2:退院指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、柗本 常子		
第15回	事例の看護過程 看護計画の実施・評価の解説 まとめ(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、柗本 常子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度	

その他	0	なし
教科書		
成人看護学概論、成人看護学援助論で使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA- I 看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習I・IIの履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学援助論Ⅴ(1組)				ナンバリング	3506
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
成人看護学は概論、援助論、臨地実習の科目で構成されている。概論を基盤として援助論Ⅰ～Ⅲは経過別に看護を学んだ。これらの科目に引き続き、援助論Ⅴは慢性疾患に罹患し生活の再構築が必要な事例の看護過程を展開することにより、知識・技術・態度の統合を図り、成人看護学実習Ⅰに繋がる科目である。「病態・治療学Ⅲ」「薬理学」「臨床検査学」などの疾病・治療に関する科目と連携する。DP「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
慢性的な経過をたどる健康障害をもつ人の理解を深め、病状・治療に応じた看護について学ぶ。この科目では、慢性疾患に罹患した成人期にある人が、疾病や治療の影響によりセルフケア行動の獲得や生活の再構築が必要となる状況を設定し、看護過程を展開する。							
到達目標							
1.事例に対して慢性期看護の特性に応じた看護過程の展開ができる 2.事例のセルフケア行動と生活の再構築に向けた援助の方法を述べることができる 3.指定された場面の援助計画を作成し、教員の助言を受けながら模擬患者に適切なケアを行うことができる 4.グループワークにより事例の看護過程を討議できる							
授業の方法							
看護過程の展開・技術演習の要点については、パワーポイントと配布印刷物を用いて説明する 指定された事例のケアに必要な技術演習を行い、模擬患者にケアを提供しながら看護過程を展開する 看護過程の展開とケアの実施は、教員の指導を受けながらグループワークを中心に行う グループでの学びと自己学習により、成人看護学・慢性期看護の特徴に応じた看護過程を各自で展開する							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

慢性疾患患者が治療を受ける総合病院で看護を実践した経験のある教員が臨床に基づいて指導にあたる

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するコメントを返す
課題の解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション グループと担当者の発表 慢性期の看護過程の特徴、事例紹介、病態アセスメント(講義)	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する 指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第2回	事例の看護過程 アセスメントの検討1(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第3回	事例の看護過程 アセスメントの検討2(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第4回	事例の看護過程 アセスメントの検討3 援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第5回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第6回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第7回	援助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 援助計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第8回	助1:フィジカルアセスメントとセルフケア指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第9回	事例の看護過程 アセスメントの解説と共有(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第10回	事例の看護過程 全体像・問題リスト、看護計画の検討(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		

第11回	援助2:退院指導 援助計画の作成(講義・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第12回	援助2:退院指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第13回	援助2:退院指導 援助計画の作成(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第14回	援助2:退院指導 ケアの実施・評価(技術演習・グループワーク)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
第15回	事例の看護過程 看護計画の実施・評価の解説 まとめ(講義)	指示された事前課題を行う(90分)	看護過程記録の追加、修正を行う(90分)
担当教員	尾形 裕子、古沢 幸子、榎本 常子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事例の看護過程と課題の提出物の内容・提出状況、演習・グループワークへの参加態度	

その他	0	なし
教科書		
成人看護学概論、成人看護学援助論で使用した教科書を用いる		
参考文献		
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版 ノーヴェルヒロカワ NANDA- I 看護診断定義と分類2021-2023 原書第12版 医学書院 病気がみえる vol.3糖尿病・代謝・内分泌 第6版 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習I・IIの履修は不可 課題記録物の遅延・未提出は減点する		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学援助論Ⅱ				ナンバリング	3535
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	辻 幸美、初見 温子						
授業の位置づけ							
本科目は、看護学科のDP「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している」を達成するための老年看護領域に帰属する科目である。「老年看護学概論」と「老年看護学援助論Ⅰ」を基盤として具体的な援助を学び、「老年看護学実習」の履修に向けて、老年看護学を实践する方法論をシミュレーションする。							
授業の概要							
本科目は、老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開ができるように学習する。学習内容は、事例に基づいた看護計画の立案と実施・評価である。この際、高齢者の健康障害や生活障害の多様性、個人差を的確にアセスメントし、個別的な援助が行えるように学習する。							
到達目標							
老年看護の対象である高齢者の特徴をふまえ、生活機能からみた適切な看護展開が実践できる。 目標： 1. 老化による身体症状や病気を持ちながらも高齢者自身が望む生活にできるだけ近づけられる看護計画が立案できる。 2. 看護計画に基づいた看護の実践と看護計画の評価ができる(シミュレーション)。 3. 自らの看護をレポートにまとめる方法が説明できる。							
授業の方法							
講義とカンファレンスや実技実践を含む演習を行う。講義ではパワーポイントと配布印刷物、既習の老年看護学領域のテキスト等を用いてすすめる。カンファレンスではグループディスカッションを行う。理解度を確認するために、課題レポートを3回実施する。							
ICT活用							
Classroomの活用 自身のPCを使用して、看護過程に必要な「情報の整理」「分析・解釈」「問題点の抽出」「看護計画の立案」までを事例1～4学習する。							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経外科系病院での22年間の勤務経験を活用して看護過程の展開を教授する。(辻)
 心臓血管外科・循環器内科病棟で5年、訪問看護ステーションで5年、看護師としての実務経験を活かし看護過程の展開を教授する。(初見)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題レポートにはコメントし、返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 学習内容: 1.本科目の位置づけとシラバスを確認する。 2.老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいていることを学習する。 行動目標: 1.ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題を明確にする。 2.老年看護学の目標志向型思考を説明できる。 紙上事例配布	老年看護学概論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学援助論Ⅰの講義資料を整理して復習する。(90分)	シラバスに沿って自身の学習計画を立案する。 問題解決型思考と目標志向型思考の違いをまとめる。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者を対象とした看護過程の展開方法 学習内容:老年看護学の哲学的基盤と目標志向型思考に基づいた看護過程の展開方法を学習する。 行動目標:アセスメントから全体像を描き看護計画立案までのプロセスが説明できる。	配布された事例を熟読し、情報を整理する。(90分)	配布された事例の情報の中で、看護に必要な情報を整理する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画立案に必要な情報とは 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、看護計画に必要な情報の取捨選択ができる。 ・看護計画に必要な情報とその情報のSとOの違いを説明できる。	配布された事例の情報をもとにSとOに分類するなどし、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第4回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<睡眠・休息と覚醒・活動> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、看護計画に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の活動と休息の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて睡眠・休息と覚醒・活動について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第5回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<食事・排泄> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、看護計画に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の食事と排泄の説明ができる。	講義内容と自己学習内容を踏まえて食事・排泄について、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:アセスメントの分析・解釈<身じたく・コミュニケーション> 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、看護計画に必要な情報の取捨選択ができる。 ・紙上事例の身じたくとコミュニケーションの説明ができる。 課題①のテーマは「紙上事例のアセスメント」で次の講義開始前に提出	講義内容と自己学習内容を踏まえて身じたく・コミュニケーションについて、自分の意見をまとめる。(90分)	他者の意見を聞き、準備学習で記載したアセスメントとの比較から見直し、修正する。課題①「紙上事例のアセスメント」作成(90分)
担当教員	辻 幸美		
第7回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の病態・生活機能関連図(全体像) 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描くことができる。 ・全体像を説明できる。 課題①提出(手元に自分の分をコピーしておく)	配布された事例の全体像を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した全体像を見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画立案に必要な目標とは 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描くことができる。 ・看護計画に必要な目標の抽出ができ、看護の方向性を説明できる。	配布された事例の看護目標を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した看護目標を見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:紙上事例に関するカンファレンスにより、事例の対象理解を深める。 テーマ:紙上事例の看護計画の援助の内容 ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描くことができる。 ・援助の内容を具体的に説明できる。	配布された事例の援助の内容を記載し、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した援助の内容を見直し、修正する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第10回	紙上事例を用いた看護計画の立案(カンファレンス) 学習内容:発表時の意見交換や自身の学びを踏まえ、グループで看護計画の修正を行う。 テーマ:看護計画の修正 行動目標: ・自身の意見と他者の意見の違いを考察し、全体像を描くことができる。 ・看護計画実施に向けて、グループで修正ができる。 課題②テーマは「紙上事例のアセスメント～看護計画」次の講義修了後に提出 ICT登録(各自PC持参)	他者の意見を含め、カンファレンスのため自身の意見をまとめる。(90分)	準備学習で記載した看護計画を見直し、修正する。課題②作成(90分)
担当教員	辻 幸美		

第11回	演習オリエンテーションとICT使用方法の説明 学習内容: 演習と臨床判断の講義オリエンテーションを受ける。先週登録したPCの活用方法を知る。 行動目標: ・演習の流れが分かり、自身がどのように動いたら良いか説明できる。 ・臨床判断の講義の受け方が説明できる。 ・自宅学習として使用するPCが操作できる。 課題②提出	今までの講義のまとめと課題②作成 (90分)	PCを使用し、看護過程の事例1を繰り返し実施し、今までの知識を確認する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第12回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容: 各自で立案した看護計画を実施する。 行動目標: 各自が事例の全体像に合った患者役と看護師役ができる。	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	PCを使用し、看護過程の事例2を繰り返し実施し、今までの知識を確認する。(90分)
担当教員	初見 温子、辻 幸美		
第13回	各グループで看護計画の実施(実技演習:実習室) 学習内容: 各自で立案した看護計画を実施する。 行動目標: 各自が事例の全体像に合った患者役と看護師役ができる。	立案した計画をシミュレーションする。(90分)	PCを使用し、看護過程の事例3を繰り返し実施し、今までの知識を確認する。 課題③を行う。(120分)
担当教員	初見 温子、辻 幸美		
第14回	経過記録(SOAP)と看護計画の評価(カンファレンス) 学習内容: 各自で記載した経過記録と看護計画の評価をもとにディスカッションを行う。 テーマ: 経過記録と看護計画の評価の違い 行動目標: ・実施した内容から経過記録を整理し記載することができる。 ・経過記録から看護計画の評価ができる。 ・経過記録と看護計画の評価の違いが説明できる。 課題③テーマは「事例の経過記録と看護計画の実施・評価」である。次回の講義前に提出する。	各自で事例の経過記録と看護計画の評価を完成させる。(90分)	PCを使用し、看護過程の事例4を繰り返し実施し、今までの知識を確認する。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第15回	本講義のまとめ 学習内容: 老年看護学における看護過程の展開方法を確認する。 行動目標: 今まで受けた講義の内容を確認し、各自で学習の振り返りができる。 課題③提出	今までの講義のまとめで不明な点を見出す。課題③作成 (90分)	今までの講義をまとめ、振り返り実習の準備に活かす。(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題①30点 課題②40点 課題③30点	

その他	0	なし
教科書		
北川公子ほか/老年看護学(医学書院) 山田律子ほか/生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第3版(医学書院) 上田敏ほか/ICFの理解と活用(きょうされん)		
参考文献		
講義中に紹介する		
履修条件・留意事項等		
・講義中は教室内で学習してください。 ・私語・携帯電話の使用は禁止です。 ・時間厳守 ・カンファレンスを行う際はマスクを必ず装着すること ・不正は一切認めません。提出物の類似、代筆など疑わしい場合は全て不正とみなします。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学援助論Ⅱ(1組)				ナンバリング	3553
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」と特に関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、小児とその家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学習を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学概論」「小児看護学健康障害論」「小児看護学援助論Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」に繋ぐ科目である。							
授業の概要							
小児看護におけるコミュニケーションと診療に伴う援助技術を学ぶと共に、小児とその家族に関わるために必要な基本的態度を養う。さらに紙上事例を用いて小児の健康問題・障害によりおこる小児と家族への看護の展開技術を発達段階、病時期別に学ぶ。							
到達目標							
1. 小児に特有な看護技術の原理・原則と根拠が理解できる。 2. 紙上事例を基に小児の成長・発達と健康上の問題を統合し、小児と家族の看護問題を明確にできる。 3. 対象者に適した方法で看護援助が実践できる。							
授業の方法							
授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループワーク。また、実習室における実技演習、およびシミュレーション演習とする。							
ICT活用							
自主学習支援(e-ラーニング「今日の臨床サポート」「ナースング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)							
実務経験のある教員の教育内容							

NICUや小児病棟で看護師として勤務した経験を活かして、援助技術や小児の看護過程の展開について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 事例に基づく看護過程の展開-1 1. 小児看護の看護過程の特徴	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	事例に基づく看護過程の展開-2 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	事例に基づく看護過程の展開-3 1. 小児の看護過程の特徴(急性期) 2. 川崎病:病態理解	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第4回	事例に基づく看護過程の展開-4 1. 川崎病:急性期解説 2. 小テスト	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第5回	小児看護に必要な看護技術-1 1. 小児のフィジカルアセスメント 2. 技術演習課題解説 3. 演習オリエンテーション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	小児看護に必要な看護技術-2 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容 の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第7回	”小児看護に必要な看護技術-3 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】”	第4～5回までの講義・演習内容 の復習を行う(90分)	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-5 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	事例のアセスメントの情報整理、 アセスメント、看護問題の抽出を 行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-6 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、 看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、 アセスメント、看護問題の抽出、 看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問 題の抽出、看護問題の修正を行 う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第10回	事例に基づく看護過程の展開-7 1. 川崎病看護過程解説	事例の看護過程を完成させる (90分)	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第11回	事例に基づく看護援助の展開-1 1. 事例紹介 2. 演習オリエンテーション 3. 小テスト	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. 事例の一場面で必要な看護援助に関するグループワーク	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-3・4 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 2. 演習評価 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	1. 講義内容に関する確認試験 2. 確認試験の解説	これまでの講義・演習内容の復習を行う(90分)	確認試験で理解不足を振り返り、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト① 5% 技術課題 10% 技術演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 10%	

その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 改訂第4版/二宮啓子, 今野美紀/ 南江堂		
参考文献		
発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版／荃津智子編／医歯薬出版 他は講義内で提示する		
履修条件・留意事項等		
講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと。 評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学援助論Ⅱ(2組)				ナンバリング	3553
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけている。」と特に関係する。看護学の理論や科学的根拠に基づき、小児とその家族の健康課題を解決するための柔軟な思考力と大局的な判断力を養い、また援助を実践することで、主体的に学習を継続し、自己成長につなげる意欲を養うための科目として位置づけられる。「小児看護学概論」「小児看護学健康障害論」「小児看護学援助論Ⅰ」と連続性があり「小児看護学実習」に繋ぐ科目である。							
授業の概要							
小児看護におけるコミュニケーションと診療に伴う援助技術を学ぶと共に、小児とその家族に関わるために必要な基本的態度を養う。さらに紙上事例を用いて小児の健康問題・障害によりおこる小児と家族への看護の展開技術を発達段階、病時期別に学ぶ。							
到達目標							
1. 小児に特有な看護技術の原理・原則と根拠が理解できる。 2. 紙上事例を基に小児の成長・発達と健康上の問題を統合し、小児と家族の看護問題を明確にできる。 3. 対象者に適した方法で看護援助が実践できる。							
授業の方法							
授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループワーク。また、実習室における実技演習、およびシミュレーション演習とする。							
ICT活用							
自主学習支援(eラーニング「今日の臨床サポート」「ナースング・スキル」の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)							
実務経験のある教員の教育内容							

NICUや小児病棟で看護師として勤務した経験を活かして、援助技術や小児の看護過程の展開について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義の中で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 事例に基づく看護過程の展開-1 1. 小児看護の看護過程の特徴	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	事例に基づく看護過程の展開-2 1. 川崎病の事例紹介 DVD視聴 2. 情報の整理	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	事例に基づく看護過程の展開-3 1. 小児の看護過程の特徴(急性期) 2. 川崎病:病態理解	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第4回	事例に基づく看護過程の展開-4 1. 川崎病:急性期解説 2. 小テスト	教科書などで、事前に該当部分を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点について自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第5回	小児看護に必要な看護技術-1 1. 小児のフィジカルアセスメント 2. 技術演習課題解説 3. 演習オリエンテーション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	小児看護に必要な看護技術-2 川崎病のフィジカルアセスメント 1. バイタルサイン測定(体温、心拍、呼吸) 2. 川崎病主症状の観察 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】	第4～5回までの講義・演習内容 の復習を行う(90分)	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第7回	”小児看護に必要な看護技術-3 【第6回、第7回は同日に2講続けて行う】”	第4～5回までの講義・演習内容 の復習を行う(90分)	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	事例に基づく看護過程の展開-5 小児看護過程の特徴(回復期) 川崎病:回復期 DVD視聴	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	事例のアセスメントの情報整理、 アセスメント、看護問題の抽出を 行う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	事例に基づく看護過程の展開-6 1. 第8回で紹介した事例を基に、グループワークを実施し、 看護計画や看護問題の焦点化を学習する	事例のアセスメントの情報整理、 アセスメント、看護問題の抽出、 看護問題の焦点化を行う(90分)	情報整理、アセスメント、看護問 題の抽出、看護問題の修正を行 う(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第10回	事例に基づく看護過程の展開-7 1. 川崎病看護過程解説	事例の看護過程を完成させる (90分)	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第11回	事例に基づく看護援助の展開-1 1. 事例紹介 2. 演習オリエンテーション 3. 小テスト	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	事例に基づく看護援助の展開-2 1. 事例の一場面で必要な看護援助に関するグループワ ーク	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	講義内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第13回	事例に基づく看護援助の展開-3 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	事例に基づく看護援助の展開-3・4 1. グループワーク内容のシミュレーション演習 2. 演習評価 【第13回、第14回は同日に2講続けて行う】	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(90分間程度)。	演習内容を復習し、疑問点につ いて自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	1. 講義内容に関する確認試験 2. 確認試験の解説	これまでの講義・演習内容の復 習を行う(90分)	確認試験で理解不足を振り返り 、自己学習をする(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	小テスト① 5% 技術課題 10% 技術演習 5% 看護過程① 5% 看護過程② 15% シミュレーション演習 10% シミュレーション演習② 5%	

その他	0	
教科書		
看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 改訂第4版/二宮啓子, 今野美紀/ 南江堂		
参考文献		
発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第4版／浅野みどり他／医学書院 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程第2版／荃津智子編／医歯薬出版 他は講義内で提示する		
履修条件・留意事項等		
講義中は他学生の学びを妨げるような行為は慎むこと。 評価対象物に不正行為が認められた場合はD判定となる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学援助論Ⅱ				ナンバリング	3575
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳						
授業の位置づけ							
本学科のDP「人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている」、「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している」、「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」に関連する。母性看護学の分娩期・産褥期・新生児期の特徴を理解し、必要な看護について学習する。「母性看護学概論」「母性看護学援助論Ⅰ」「周産期健康障害論」を基盤として、「母性看護学援助論Ⅲ」「母性看護学実習」につながる科目である。							
授業の概要							
母性看護学援助論Ⅰで学習した妊娠期の援助をふまえて、分娩期・産褥期の母体と胎児、および新生児の生理的变化と家族を含めた看護援助の方法について基本的な知識を習得する。							
到達目標							
1. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の看護援助を行うために必要な基本的知識を説明できる。 2. 分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を述べることができる。 3. 分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護の特性と方法を述べることができる。 4. 分娩期、産褥期、新生児期における主な異常とその看護援助の要点を挙げることができる。 5. いのちの大切さについて母性看護学の視点から論じることができる。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウトを用いた講義形式ですすめる。 適宜、視聴覚メディア(オンライン資料、DVD、動画教材等)と教育教材などを活用する。 毎回、講義のなかでミニッツペーパー(学びの振り返り、思ったこと、質問等を記述したもの)を使用し、理解度の確認等を行う。							
ICT活用							
・授業の参考動画や資料は、Google Classroomにアップし復習に活用できるようにする。 ・課題の提出とフィードバックは、Google Classroomの課題提出機能等を活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場における周産期ケアと看護の実践について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かし、周産期の母子とその家族の看護や子育て支援、周産期のグリーフケアについて具体的で実践的な内容を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

ミニッツペーパーの質問等の内容について、次回講義内で返答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション 分娩期の看護① 分娩の定義、分娩の3要素・分娩の機序と経過、分娩の進行と産婦の身体的変化とアセスメント、分娩第1期から第4期までの看護について学ぶ。	周産期健康障害論の学習内容を復習しておくこと(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	分娩期の看護②(多賀) 分娩期における看護の実際と胎児心拍数陣痛図の読み方、産婦と胎児の健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。 (分娩室の環境、バースプランとバースレビュー、胎児モニタリングの方法と看護など)	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	分娩期の健康課題と看護 異常分娩時の産婦の看護について学ぶ。 知識確認テスト①(第1回～第3回の授業範囲)	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること。知識確認テストに向けて該当する授業内容の教科書とハンドアウトを復習をする。(120分)	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと。知識確認テストでわからなかった部分は該当する教科書の範囲を読んで理解を深める(100分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	産褥期の看護① 産褥期の身体的、心理的、社会的変化について学ぶ。褥婦の健康状態のアセスメントと退行性変化への看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第5回	産褥期の看護② 褥婦の健康状態のアセスメントと進行性変化への看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第6回	帝王切開術と看護 帝王切開術を受ける産婦と手術後の褥婦の看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	産褥期の健康問題に対する看護 子宮復古不全、貧血、産褥期の発熱、乳腺炎、産後の精神障害と看護について学ぶ。 確認テスト②(第4回～第7回の授業範囲)	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること。知識確認テストに向けて該当する授業内容の教科書とハンドアウトを復習をする。(120分)	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと。知識確認テストでわからなかった部分は該当する教科書の範囲を読んで理解を深める(100分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	早期新生児期の看護① 新生児の定義・新生児の機能と生理的変化と看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	早期新生児期の看護② 新生児のアセスメントと看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	早期新生児期の看護③ 新生児黄疸と看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	早期新生児期の健康課題と看護① ハイリスク新生児(低出生体重児・早産児など)と看護について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	早期新生児期の健康課題と看護② 新生児合併症(新生児仮死、分娩外傷、感染症、呼吸障害など)について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	退院時の看護と子育てにかかわる看護 産後の母子の退院に向けた看護と退院時の看護、子育て支援と課題について学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	先天異常、障害がある新生児と家族の看護、周産期のグリーフケアについて学ぶ。	教科書の授業計画に関連する項目を読み予習すること(90分)。	ハンドアウトを読み直し、教科書を読んで復習と理解をしておくこと(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	知識確認テスト③(第8回～第14回の授業範囲)	これまでのハンドアウトを読み直し、理解が浅い部分は教科書の関連する項目を読んで理解を深めておくこと。知識確認テストに向けて該当する授業内容の教科書とハンドアウトを復習をする。(120分)	これまでの学習内容について復習する(90分)。
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内での知識確認テスト(30%×3回)	

その他	10	ミニッツペーパーの適切性と授業への参加態度(参加態度が悪い場合は減点となる)
教科書		
母性看護学Ⅱ 有森直子編 医歯薬出版 母性・小児看護ゼンブガイド第2版 古川亮子編 照林社		
参考文献		
今日の臨床サポート ELSEVIER Nursing Skills ELSEVIER		
履修条件・留意事項等		
母性看護学実習の必修科目である。評価対象物で不正行為が認められた場合はD判定となる場合がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学援助論Ⅲ(2組)				ナンバリング	3576
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	福士 晴佳、多賀 昌江						
授業の位置づけ							
本学科のDP「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。」「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる。」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学概論」、「母性看護学援助論Ⅰ」、「母性看護学援助論Ⅱ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。							
授業の概要							
母性看護の対象である妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児および家族に対し、ウェルネスの観点から健康課題を明らかにし、必要な看護の方法を修得する。また、事例を用いた看護過程の展開を行い、対象に合わせた看護計画を立案する方法を学ぶ。							
到達目標							
1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。 2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べることができる。 3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実施することができる。 4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。							
授業の方法							
1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。 2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。 3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。 4.グループワークを行う。							
ICT活用							
課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実践について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

母性看護学技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション 本科目の位置づけ、概要等を確認する。 ウェルネス看護過程に基づいた看護過程ウェルネス看護 診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.2-21を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.24-35、p.89-100を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-135を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第5回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.138-142を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第6回	産後の母児の看護技術①と確認テスト 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。また、妊娠期・分娩期の看護技術とアセスメントに関する第1回確認テストを実施する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-142を読んでおくこと。また、妊娠期・分娩期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	産褥期の看護技術② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	早期新生児期の看護過程 早期新生児期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。また、新生児の日数に応じた生理的变化を把握するために必要な看護ケアについて学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.195-217を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	早期新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	早期新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	退院に向けた母児のケア① 入院中の母児の状況をアセスメントし、必要な看護について学習する。	根拠がわかる母性看護過程:事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-229を読んでおくこと。(90分)	講義・演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児に関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	まとめと確認テスト 産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する第2回確認テストを実施する。	産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%	

その他	0	
教科書		
1)根拠がわかる母性看護過程 中村幸代 南江堂 2)母性看護学Ⅱ 有森直子編 医歯薬出版		
参考文献		
1)Nursing Skills ELSEVIER 2)母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社		
履修条件・留意事項等		
評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学援助論Ⅲ（1組）				ナンバリング	3576
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	福士 晴佳、多賀 昌江						
授業の位置づけ							
本学科のDP「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。」「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。」「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる。」と関連した科目である。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に必要な看護実践能力を身に付けるため、「母性看護学概論」、「母性看護学援助論Ⅰ」、「母性看護学援助論Ⅱ」を基盤とし、「母性看護学実習」に必要な能力や援助技術を修得する。							
授業の概要							
母性看護の対象である妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児および家族に対し、ウェルネスの観点から健康課題を明らかにし、必要な看護の方法を修得する。また、事例を用いた看護過程の展開を行い、対象に合わせた看護計画を立案する方法を学ぶ。							
到達目標							
1. 妊婦と胎児の健康状態を判断し、必要な看護を述べることができる。 2. 産婦が安全・安楽に過ごすための看護を述べることができる。 3. 褥婦と新生児の健康状態を判断し、生理的特徴とその変化をふまえた看護を実施することができる。 4. 看護過程を展開し、周産期における母子の経時的な変化のアセスメントおよび看護計画の立案ができる。							
授業の方法							
1. 講義では、パワーポイントとハンドアウトを用いて説明する。 2. 演習では、事前学習を行った上で看護技術を実践する。 3. 演習後は理解度を確認するために事後課題を課す。 4.グループワークを行う。							
ICT活用							
課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当教員は全員助産師である。助産師として、産科や周産期母子医療センター、NICUなどに10年前後勤務した経験があり、臨床現場での具体的なケアと看護の実践について豊富な知識を有している。この臨床経験を活かして、母性看護技術と看護過程の演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

母性看護学技術演習時に実施した看護技術を振り返り、課題の明確化を図る。また、看護過程課題のフィードバックとして、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースオリエンテーション 本科目の位置づけ、概要等を確認する。 ウェルネス看護過程に基づいた看護過程ウェルネス看護 診断に基づいた看護過程の展開方法を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.2-21を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第2回	妊娠期・分娩期の看護過程 妊娠期・分娩期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.24-35、p.89-100を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第3回	妊娠期・分娩期の看護技術演習 妊婦の身体的側面と胎児の健康状態を査定するために必要な看護技術を学習する。産婦が安楽に過ごすために必要な看護技術を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第4回	産褥期の看護過程① 産褥期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-135を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第5回	産褥期の看護過程② 産褥期における看護診断と看護計画の立案について学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.138-142を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第6回	産後の母児の看護技術①と確認テスト 褥婦の健康状態を判断し、出産後の全身の回復や子宮復古および乳汁分泌促進に関する看護ケアについて学習する。また、妊娠期・分娩期の看護技術とアセスメントに関する第1回確認テストを実施する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-142を読んでおくこと。また、妊娠期・分娩期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第7回	産褥期の看護技術演習① 産褥期の身体的変化を査定するために、退行性変化の観察方法を学習する。また、育児技術について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第8回	産褥期の看護技術② 産褥期の身体的変化を査定するために、進行性変化の観察方法を学習する。また、授乳方法について学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第9回	早期新生児期の看護過程 早期新生児期のアセスメントの方法と看護診断に必要な視点を学習する。また、新生児の日数に応じた生理的变化を把握するために必要な看護ケアについて学習する。	根拠がわかる母性看護過程: 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.195-217を読んでおくこと。(90分)	講義で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第10回	早期新生児期の看護技術演習① 新生児の身体的変化を査定するために、バイタルサインズの測定および黄疸測定の方法を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		

第11回	早期新生児期の看護技術演習② 新生児の身体的変化を査定するために、全身観察の方法を学習する。	看護技術演習で実施する項目の目的、方法・手順、注意点について学習すること。事前課題を完成させておくこと。(90分)	技術演習事後課題を完成させ、提出すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第12回	退院に向けた母児のケア① 入院中の母児の状況をアセスメントし、必要な看護について学習する。	根拠がわかる母性看護過程:事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画p.113-229を読んでおくこと。(90分)	講義・演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第13回	産後の母児の看護技術② 母性看護学実習をシミュレーションし、行動計画の立案方法と母児に関連させた観察事項の報告方法について学習する。	事前課題を完成させておくこと。(90分)	演習で学んだ内容を復習し、疑問点や不明な点は自己学習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第14回	看護過程フィードバック 看護過程のフィードバックを行い、自己課題を明らかにする。	講義で使用した教科書や資料を見直すこと。(90分)	フィードバックをもとに返却された看護過程課題を修正すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
第15回	まとめと確認テスト 産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関する第2回確認テストを実施する。	産褥期・新生児期の看護技術とアセスメントに関して復習すること。(90分)	これまでの学習内容について復習すること。(90分)
担当教員	多賀 昌江、福士 晴佳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	看護過程課題 50% 事前課題・事後課題 20% 確認テスト 30%	

その他	0	
教科書		
1)根拠がわかる母性看護過程 中村幸代 南江堂 2)母性看護学Ⅱ 有森直子編 医歯薬出版		
参考文献		
1)Nursing Skills ELSEVIER 2)母性看護 第2版(パーフェクト臨床実習ガイド) 堀内成子 照林社		
履修条件・留意事項等		
評価対象の課題に関して、不正行為が認められた場合はD判定になることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学援助論Ⅱ				ナンバリング	3595
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	井上 仁美						
授業の位置づけ							
DPの「対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる」「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」に関連した科目である。 精神看護学概論、精神看護学健康障害論、精神看護学援助論Ⅰを習得したあとの演習科目である。また精神看護学実習の基礎となる講義である。							
授業の概要							
これまでに学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてアセスメントから看護計画立案までを学習する。また、セルフケアレベルに応じた看護実践の方法を学ぶ。 プロセスレコードの作成をとおして看護場面を振り返り、自己理解・他者理解を深めながら患者－看護師関係の基礎づくりと発展段階について学ぶ。							
到達目標							
1. 精神障害をもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について説明することができる。 2. さまざまな精神障害をもつ対象者【事例】のアセスメントから看護計画までを立案することができる。 3. 看護場面の再構成をとおして自己理解・他者理解の方法と対象者との信頼関係の基礎づくりおよび発展段階について説明することができる。							
授業の方法							
第1回から8回までは講義形式で行う。第9回からは事例を用いた看護過程の展開を指定された様式を用いてグループワークを行いながら実施し、事例ごとに発表する。							
ICT活用							
提出物および準備学習・事後学習の課題については指定された提出先 (Google Classroom; 以下GC) に提出し自主学習を支援する。							
実務経験のある教員の教育内容							

本科目は精神保健福祉の分野において看護師の実務経験がある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や確認テストについては講義時間中またはGCにフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業開始のガイダンス;授業の位置づけ、概要、目標、方法 精神科における主な治療と看護 精神疾患に用いられる向精神薬および抗精神薬の作用と有害反応、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解するとともに、その看護について学習する。 精神科における治療法の一つである電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法と看護について学ぶ。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 151～190をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.234～287をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第2回	〃精神科病院における安全管理<セーフティマネジメント>と倫理的配慮、講義のはじめに【確認テスト①;第1回講義の内容(5点)】 精神科病院の療養環境について学び、単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いを理解するとともに、行動制限や身体合併症の予防、多飲水・水中毒など精神科病院におけるリスクと安全管理について学習する。 隔離、身体的抑制を行う際の法的根拠と倫理的配慮、看護について学ぶ。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 257～274をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.233～287をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第3回	入院生活での身の回りの生活を整える援助 ～個人衛生、活動と休息のバランスの維持、金銭・私物管理～【確認テスト②;第2回講義の内容(5点)】 精神科病院に入院している患者の生活の実際を学び、清潔、活動、金銭および私物管理などについての具体的な援助の方法について学習する。 入院前の生活から入院中、退院後の生活の一連の過程をととして、患者が自立・自律した生活を送るための支援の方法を考える。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.120～143、155～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第4回	精神科における症状マネジメント ～幻覚・妄想、無為・自閉、不安、拒否がある患者への対処～【確認テスト③;第3回講義の内容(5点)】 精神科でよくみられる症状へのアセスメントと対処法、看護介入について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.165～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第5回	看護場面の再構成と援助関係の構築【確認テスト④;第4回講義の内容(5点)】 対象者とのかかわり方を学んだうえで、患者－看護師関係をアセスメントし、振り返るためのプロセスレコードの方法について学習し記載する。 信頼関係の基礎づくりと患者－看護師関係の発展段階について学習する。”	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P. 194～223をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	プロセスレコードを作成し、期限までにGCに提出する【10点】。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第6回	セルフケア理論の概要【確認テスト⑤;第5回講義の内容(5点)】 精神看護学で用いられる看護理論を学ぶ。 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論について学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.19～31、98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.226～254をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く。 次回の講義時に確認テストを行うため、テキストとレジュメでよく復習をする(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第7回	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際;アセスメント、看護計画の立案【確認テスト⑥;第6回講義の内容(5点)】 統合失調症の事例をととして、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論による看護過程の実際を学び、アセスメントと看護計画の立案の方法を学習する。	テキスト;看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 P.98～164をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.274～293をよく読んで復習する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第8回	看護過程の展開<グループワーク①> 展開する事例の説明 これより看護過程を展開する4つの事例(妄想性障害、双極性障害、アルコール依存症、摂食障害)について各事例の生活歴等の背景や症状を理解することができる。※事例の疾患は変更する場合がある	テキスト;精神看護学②精神障害をもつ人の看護 P.288～310をよく読んで重要な箇所はノートに記載するかマーカーを引く(90分)。	自分のグループが展開する事例の情報を様式①から③まで分類する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第9回	看護過程の展開<グループワーク②> 事例ごとにグループに分かれて進める。	自分のグループが展開する事例を様式④から⑤まで作成する(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第10回	看護過程の展開<グループワーク③> 事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員	井上 仁美		

第11回	看護過程の展開＜グループワーク④＞ 事例ごとにグループに分かれて進める。	グループでの課題を進める(90分)。	グループでの課題を進める(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第12回	看護過程の発表① 妄想性障害の事例 妄想性障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	妄想性障害の事例についてよく読んでおく(90分)。	発表されたグループの妄想性障害の事例展開(様式①から⑤)について復習する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第13回	看護過程の発表② 双極性障害の事例 双極性障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	双極性障害の事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第14回	看護過程の発表③ アルコール依存症の事例 アルコール依存症の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	アルコール依存症の事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	プレゼンテーションされた様式①から⑤について復習する(90分)。
担当教員	井上 仁美		
第15回	看護過程の発表④ 摂食障害の事例 摂食障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開を学習する。	摂食障害の事例をよく読んでおく。 発表するグループはプレゼンテーションができるよう準備する(90分)。	レポート課題を提示するので、作成して提出する【10点】(90分)。
担当教員	井上 仁美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・プロセスレコードの提出10% 10点×1回 ・レポート課題の提出10% 10点×1回 ※具体的な課題と提出方法は、そのつど提示する ・グループワークの成果内容および発表、50% 50点 ＜評価基準は授業内で提示する＞ ※事例展開の内容によって発表するグループを決定する(各3グループ)。 発表するグループには加点するが、発表時に欠席した場合、欠席した学生には加点しない。 グループでの活動及び成果物に貢献していないと他の学生から指摘があり、グループの学習	

その他	0	
教科書		
山本勝則 守村洋 監修:看護実践のための根拠がわかる精神看護技術、第3版 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学①精神看護学概論／精神保健 第5版 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護 第5版 メヂカルフレンド社		
参考文献		
適宜、資料を配布する。参考文献はGCに提示する。		
履修条件・留意事項等		
本科目は4年次の精神看護学実習履修要件です。看護過程は実習と同じ様式を用いるので、しっかりと理解して1年後の実習に活用できるように積極的に学習してください。実習前には看護過程の書き方等の説明は行わないので、準備学習・事後学習を行い、よく理解し記述ができるようにすることが必須です。 事例展開の発表は時間の都合上、すべてのグループは発表できないが、発表するグループには加点をする。ただし、グループでの活動及び成果物に参加・貢献していないと他の学生より指摘があり、そのような事実が判明した学生や発表時に欠席した学生は大幅に減点対象とするため注意すること。 総合点で60点に満たない場合はDHの対象となる。 2ターム内に計15回の講義をするため、1週間に2回程度の講義を行うが、休補講対応をすることがあるため、日程と教室を確認して出席すること。		
備考欄		
講義の開始時に確認テストがある場合は、遅刻すると確認テストは受けられないことがあるので注意する。 事例による看護過程の展開についての課題が時間内に終了しない場合は、時間外に各グループで進める必要がある。 グループ内で担当を決めるときは、全体像の整合性についてグループで協議してから提出すること。 事例であっても、きちんと「人」として尊重し「さん」をつけるなど、呼び名等に配慮すること。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護マネジメント論				ナンバリング	4660
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美						
授業の位置づけ							
看護学科のディプロマ・ポリシー「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーション」とおして「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高める」ための科目である。 ②他の科目との前後のつながり:「地域看護学概論」「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と関連し、「看護実践マネジメント実習」の基礎となる。							
授業の概要							
看護の質を保障するための組織のあり方やシステム、人材育成の視点から看護マネジメントを学ぶ。具体的には、対象が必要とする医療サービスを受けるための組織構造、他職種と看護職との連携について、事例を通して理解する。質を担保し安全な看護ケアを継続して提供するために、組織およびチームのメンバーとして求められる基本的な能力を理解したうえで、看護業務スケジュールや自己目標の立案について体験的に学ぶ。さらに、専門職業人としての責任を理解し、働き続けるためのセルフマネジメントについて考察する。							
到達目標							
1.少子高齢社会への対応として保健医療福祉を含めたチーム医療に期待されること、看護職が果たす役割について説明できる。 2.医療施設内における看護部門の位置付けと特徴、看護ケアの質の保障、継続して安全に看護ケアを提供する仕組みについて述べることができる。 3.専門職業人としての看護職の特徴と、看護師が働き続けることを目指したマネジメントを説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウトを用いた講義と実践的な演習により進める。							
ICT活用							
出席確認や課題提出に、Google Classroomを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

看護師として急性期病院での勤務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、提出された課題に対し、授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業ガイダンス 【マネジメントとは何か】 看護管理学とは何か、看護ケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの違い、看護のマネジメントが行われる場、看護におけるマネジメントの考え方	教科書第1章(P2-13)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を復習し、看護マネジメント論で学ぶべきことを明確にする(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【マネジメントに必要な知識と技術】 マネジメントに必要な基本的な知識として、マネジメントプロセスの考え方、経営資源(人、サービス、カネ、情報)PDCAサイクルについて説明する。組織を調整するために必要な技術として、リーダーシップやメンバーシップについて説明する。 小テスト①	教科書の第5章(P138-162)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第3回	【看護サービスのマネジメント①】 看護サービスの特徴、看護部門のマネジメントマネジメントについて概説する。組織とは何か、組織理念・行動目標などについて解説する。組織理念を達成するために適切な組織形態の種類と特徴、組織図に基づく分業、目標管理について説明する。看護単位や看護提供体制についても説明する。	教科書第4章(P78-95)を読み、内容を理解する(90分)	看護部門における看護管理者の役割を役職別に明確にする(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第4回	【看護サービスのマネジメント②】 病院設備や病院内で使用する物品、薬品などのモノのマネジメントについて説明する。 小テスト②	教科書第4章(P110-121)を読み、内容を理解する(90分)	小テストで間違った問題に関する事項を復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第5回	【看護サービスのマネジメント③-1】 看護職のキャリアに関する理論、院内教育制度(集団研修とOJT)、クリニカルラダーなどのキャリアデベロップメント、病院における人材フロー、看護職員の労務管理について説明する。	教科書第4章(P96-109)を読み、内容を理解する(90分)	看護職のキャリアマネジメントについて整理する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第6回	【看護サービスのマネジメント③-2】 ゲストスピーカー:看護職に対するキャリア支援の実際 ワーク課題①	現在、自分が歩もうとしているキャリアについて考えてくる(90分)	ワーク課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第7回	【看護サービスのマネジメント④】 病院内で取り扱われる情報のマネジメント、および組織としてのリスクマネジメントについて説明する。医療におけるサービスの質の評価について説明する。	教科書第4章(P122-136)を読み、内容を理解してくる(90分)	医療の質の評価について整理する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第8回	【看護ケアのマネジメント①】 看護の継続(勤務体制、病棟内での連携、外来と病棟の連携)、他職種との連携(チーム医療)、地域との連携(地域包括ケアシステム)、連携のための退院調整について説明する。 小テスト③	教科書第2章(P16-22,P41-50)を読み、内容を理解してくる(90分)	小テストで間違った問題に関する事項について復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第9回	【看護ケアのマネジメント②-1】 複数の対象を担当する場合に必要とされる、業務マネジメントについて説明する。優先順位の判断、タイムマネジメントについて学ぶ。	教科書第2章(P51-52,P58-60)を読み、内容を理解する(90分)	行動計画の立案するときのポイントについて整理する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第10回	【看護ケアのマネジメント②-2】 ワーク:複数の患者を担当した場合の行動計画を立案し体験的に学習する。病態の把握、1日のスケジュールの確認、患者の要望から、優先順位を判断し、タイムスケジュールの立案を体験的に学ぶ。 ワーク課題②	これまでの実習で自分が行ってきた行動計画の立案方法について振り返っておく(90分)	ワーク課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第11回	【看護ケアのマネジメント③-1】 看護を提供する仕事の特徴としての感情労働や、ストレスに対するセルフマネジメントについて説明する。患者満足度と職員満足度、看護職の多様な働き方、ワークライフバランスについて説明する。	教科書第3章(P71-76)を読み、内容を理解する(90分)	自己の学業とプライベートのバランスのとり方を振り返り、改善点を明確にする(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第12回	【看護ケアのマネジメント③-2】—卒業までの自分の目標 ワーク:多重課題に直面した時、どのように対応するのか考える ワーク課題③	日常の場面で生じた多重課題に対し、自分がどのように対処しているのかについて振り返っておく(90分)	ワーク課題③を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第13回	【看護を取り巻く諸制度①】 医療保険制度や診療報酬の仕組みや、看護職に関連する法律について概説する。	教科書第6章(P166-193)を読み、内容を理解する(90分)	授業内容を整理し、復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第14回	【看護を取り巻く諸制度②-1】 少子高齢化による医療・看護への影響について説明する。そのうえで、看護職に期待される事を検討する。 小テスト④	少子高齢化が保健医療福祉に与えた影響について調べてくる(90分)	小テストで間違った問題に関連する事項について復習する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第15回	【看護を取り巻く諸制度②-2】 ワーク:専門職業人として求められる法的責任や患者の権利、職業倫理について学び、看護実践における倫理的ジレンマについて考える。 ワーク課題④	教科書第2章(P19-22)第6章(P166-181)を読み、内容を理解する(90分)	ワーク課題④を期限までに提出する(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト各10%×4回=40%、ワーク課題各15%×4回=60%	

その他	0	
教科書		
系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践① / 上泉和子他 / 医学書院		
参考文献		
ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 / 吉田千文他 / メディカ出版		
履修条件・留意事項等		
実習前の集中講座で2講連続となるため、休講・補講の連絡に注意し、授業スケジュールを確認すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究 I				ナンバリング	4701
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 洋子						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」および「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」を目指し、看護学における基本的な研究プロセスに関する知識を習得する科目である。この知識に基づき「看護研究Ⅱ」で発展的な学習につなげる。							
授業の概要							
看護学と医療・保健の質向上に貢献できる研究能力を養うため、看護活動を効果的に展開するためには、研究的視点を持ち看護の実践知を論理的・体系的にとらえ、看護実践の改善に役立てていくが必要になる。本科目では、看護における研究の意義を理解した上で、実際に看護研究のプロセスを理解する。また、看護研究に必要な研究方法、研究デザイン、研究倫理について学び、研究計画書を作成する基礎的知識を習得する。							
到達目標							
1. 看護学における研究の役割を理解することができる。 2. 研究のプロセスが理解できる。 3. 看護研究における今後の課題を考えることができる。 4. 批判的に文献検討を行う視点を身につけることができる。							
授業の方法							
本科目は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して学習する。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。理解度を確認するための小テスト並びに課題レポートの提出によって総合的に評価する。理解を深めるため小テストを実施する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。							
ICT活用							
Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

本講義は実務、研究の経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト・課題レポートを実施した後、解説を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 看護研究 I の位置づけとシラバスの説明	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護における研究の役割 研究の目的と意義、研究プロセス	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	研究対象者の権利と倫理審査体制 研究における倫理的配慮 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 等	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第4回	研究課程の概要 研究デザイン(量的研究、質的研究、他)	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		

第5回	文献検討の方法 文献検討の目的、方法、文献の分類、研究論文の形式、国内外のデータベース等	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第6回	文献検索の方法 データベース「医学中央雑誌」を中心とした検索方法、他(図書館司書) 課題1:文献検索および文献クリティーク検討のレポート 文献検索レポート	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第7回	論文のクリティークの方法 看護研究論文のクリティークの視点	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第8回	前半まとめ、小テスト	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第9回	研究計画書の作成方法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第10回	データ収集と分析	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		

第11回	研究成果の公表について プレゼンテーション、論文の作成の方法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第12回	研究結果の活用 課題2: 文献クリティークの個人レポート	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第13回	文献検討の実際(演習) グループディスカッション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第14回	文献検討の実際(演習) グループディスカッション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
第15回	看護研究の今後の課題、まとめ	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)。	講義内容をまとめ、疑問点は自 己学習をすること(90分程度)。
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験1回(60点) 課題1レポート:20点 課題2レポート:20点	

その他	0	
教科書		
南 裕子・野嶋佐由美編/看護における研究第2版/日本看護協会出版会		
参考文献		
講義内で提示する。		
履修条件・留意事項等		
講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。 他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。 講義中の私語は厳禁です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		看護研究Ⅱ				ナンバリング	4702
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美、小堀 ゆかり、高岡 哲子、井上 仁美、尾形 裕子、木口 幸子、多賀 昌江、鹿内 あずさ、福士 晴佳、佐々木 律子、辻 幸美、藤長 すが子、小嶋 拓真、菅原 美保、竹之内 優美、藤村 恵理子、渡辺 一代、坂本 常子、古沢 幸子、佐藤 洋子、赤坂 浩子、初見 温子、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本学科のディプロマポリシー「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動することができる」を身につけるための科目である。「看護研究Ⅰ」と関連し、それまで履修した専門科目の総まとめとなる。							
授業の概要							
これまでの講義・演習、実習での経験から抱いた興味・関心や疑問(研究動機)に基づき、研究課題(研究テーマ)を明確化する。見出した研究課題について、「看護研究Ⅰ」で学修した知識を用いて、研究計画書を作成する技能を習得する。探究することを通して、看護研究の意義や看護学への理解を深める。また、研究者としての研究倫理や態度、共同で研究を進めるうえでのマナーやルールを身につける。							
到達目標							
1. 自分が持った関心や疑問(研究動機)から研究課題(研究テーマ)を明らかにすることができる。 2. 研究課題に関する文献検索と文献のクリティークを行い、その結果を文献カードにまとめることができる。 3. 共同で研究課題にふさわしい研究デザインを設計することができる。 4. 共同で所定の様式に従った研究計画書を作成することができる。 5. 共同で最終成果を発表することができる。 6. 計画書作成の過程に、自主的、建設的、協力的な態度で参加することができる。							
授業の方法							
少人数のグループに分かれて、ゼミ形式で進める。担当教員より、研究の背景・研究動機・研究目的・文献検討・研究方法・倫理的配慮について指導を受けながら、自分たちが関心を持っている研究課題について、グループで研究計画書を作成する。研究計画をより洗練させるため、計画書の作成途中で中間報告会を開催し、他の学生や教員からの意見をもらう。最後に研究計画書報告会で発表し、抄録集にまとめ、看護研究についての学びを深める。							
ICT活用							
研究倫理については、eラーニングを用いて学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は看護職の勤務経験を活かし、看護研究について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

研究計画書の作成過程で、口頭もしくは研究計画書へのコメントによりフィードバックを行う。中間報告会や研究計画書発表会では、質疑応答の時間にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【科目ガイダンス】 グループワーク 各自が関心を寄せている研究疑問を持ち寄り、グループ内で発表し、グループとして取り組む研究課題と、今後の方向性について討議する。 看護研究Ⅱの進め方について担当教員と相談する。	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第2回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第3回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第4回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第5回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第6回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第7回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第8回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第9回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第10回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			

第11回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第12回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第13回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第14回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第15回	グループワーク ゼミの担当教員の指示に従う	課題整理(30分)	持ち帰った課題の検討(30分)
担当教員			
第16回	中間報告会 原則として2領域以上で合同で行う。運営は学生主体で行う。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第17回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第18回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第19回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第20回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第21回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第22回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第23回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第24回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第25回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第26回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第27回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			
第28回	グループワーク ゼミの担当教員の指示により、研究計画書を修正する。	課題整理(30分)	中間報告会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討(30分)
担当教員			

第29回	研究計画書発表会 座長・タイムキーパー・マイク係りなどを学生が担い、運営する。	課題整理 (30分)	発表会で指摘された修正点や質問への対応、残された課題の検討 (30分)
担当教員			
第30回	グループワーク 研究計画書・抄録集を完成させる。	課題整理 (30分)	振り返り (30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	評価表に従い、研究計画書、抄録、発表会資料、グループワーク参加態度について、総合的に評価する。	
その他	0		
教科書			
なし			
参考文献			
授業の期間内に必要時、提示する。			
履修条件・留意事項等			

主体的に、かつ計画的に取り組むこと。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	1135
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。							
授業の概要							
これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。							
到達目標							
・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。 ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。 ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。グループワークを実施する。 ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。							
ICT活用							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。 ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。							
実務経験のある教員の教育内容							

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など	
教科書			

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- ・講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- ・講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 健康支援と社会保障制度					
科目名		看護学英語文献講読				ナンバリング	2387
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	梶本 常子、佐藤 洋子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる」とことと特に関係がある科目である。英語文献を講読することで研究する力を身につけ、「看護研究Ⅰ」と「看護研究Ⅱ」と連携している。							
授業の概要							
看護学の英語文献を実際に日本語に翻訳する中で、英語の長文を講読する方法を習得し、学術文献の内容を理解できるように実践を学ぶ。							
到達目標							
1. 英語文献を講読する意味が理解できる。 2. 看護学関連の英語文献を日本語に翻訳することができる。 3. 翻訳した英語文献を基に自らの考えを述べることができる。							
授業の方法							
講義形式と学生同士のディスカッション、発表を活用して行う。 教材は、担当教員が作成した資料を用いる。							
ICT活用							
レポートの提出などはclassroomを活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は、看護師資格を有し臨床経験に基づいた講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、個別に評価する。
フィードバックは全体へ行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイダンス 授業の概要、進めかた、評価方法などについて説明する	英語論文を読むことの意義について調べておく(90分)	講義内容を振り返る(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第2回	看護学関連の英語文献を講読する必要性 看護学関連の英語文献を講読する必要性、講読するポイント、英語文献の検索方法(CINAHL)、文献の抽出。	抽出した文献を翻訳する(90分)	抽出した文献を翻訳する(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
第3回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第4回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献を翻訳する(90分)	講義での助言を基に追加修正する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第5回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見 をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正 する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	抽出した文献を講読する 翻訳した文献を基にディスカッションする。	抽出した文献に対する自分の意見 をまとめる(90分)	講義での助言を基に追加修正 する(90分)
担当教員	証本 常子		
第7回	発表会(発表・講義) 抽出した文献の概要と自身の考えを発表して、他者から意見 をもらう。	発表準備を行う(90分)	講義での助言を基に追加修正 する(90分)
担当教員	佐藤 洋子、証本 常子		
第8回	本講義のまとめ 本講義の内容を振り返る。 最終レポート:抽出した英語文献の概要と自身の考えをレ ポートとして1200字程度にまとめる。	今までの講義内容を振り返る (90分)	最終レポートを作成する(90 分)
担当教員	佐藤 洋子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	最終レポート	
その他	0		
教科書			

なし
参考文献
必要時講義中に提示する。
履修条件・留意事項等
私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。 学習は主体的に行う。 評価対象物への不正行為は、D判定となる場合があります。
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		看護実践マネジメント実習				ナンバリング	4824
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	坂東 奈穂美						
授業の位置づけ							
看護学科のディプロマポリシーである「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーション」をとりながら、「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力・判断力により、その解決に向けて行動する」ことで、「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高める」ことを養う科目である。それまでに履修した専門科目の総まとめとなる。							
授業の概要							
本科目では、看護チームの組織・機能・マネジメントの実際を学び、保健医療福祉チームの一員として多職種との協働について理解する。そのうえで、看護の質向上と継続に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象や場に応じた実践力を修得する。専門職業人としての責任と自己研鑽の必要性を理解する。そのために、チームメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、対象の看護実践に必要な知識について自ら学習する態度を身につける。							
到達目標							
1. 医療施設における看護チームの組織・機能・マネジメントの実際について説明できる。 2. 保健医療福祉チームの一員として、多職種との連携・協働の実際について述べることができる。 3. 看護の継続と質保証に向けて看護実践に必要な知識・技術を統合し、対象(複数)や場に応じた看護を計画し参加できる。 4. 専門職業人として、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解したうえで、看護ケアに参加できる。							
授業の方法							
継続統合看護学実習要項を用いてオリエンテーションを行い、実習する。 実習最終日にグループ発表を行い、学びの共有を行う。							
ICT活用							
状況に応じて、Google Classroomを用いて、実習オリエンテーションや実習記録の指導などを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

看護師としての勤務経験を活かし、看護師としてチームの中で働く場合に求められる専門知識と協働するための能力について、臨床の実習指導者とともに指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

状況に応じて、適宜、口頭によるフィードバックを行う。実習記録に対しコメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	看護実践マネジメント実習要項にしたがい実施する。日程は後日指定する。	関連する授業で使用した教科書、配布資料を見直して理解しておくこと。	実習記録を期日までに作成して提出すること。
担当教員			
第2回	なし	なし	なし
担当教員			
第3回	なし	なし	なし
担当教員			
第4回	なし	なし	なし
担当教員			

第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	90%:(実習目標の達成度70点、実習報告会での発表10点、実習への取り組み態度10点を評価点とする。) 10%:(実習終了後レポート10点を評価点とする。) 記録物などにおいて提出期限を過ぎて提出した場合は、減点対象とする。	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
授業の期間内に必要時、提示する。		
履修条件・留意事項等		
主体的に、かつ計画的に取り組むこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 臨地実習					
科目名		在宅看護学実習				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「看護を实践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している【知識・技能】」「保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる【知識・技能】」「状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる【思考・判断・表現】」と関連し、在宅における在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得する科目である。既習の在宅看護学概論・地域看護学概論・地域包括ケアシステム論・家族看護学・在宅看護学援助論Ⅰ・在宅看護学援助論Ⅱと関連し、看護援助の実践の中から学ぶ科目である。							
授業の概要							
在宅における疾病や障害を持つ人々とその家族に対して、看護援助を展開するために必要な知識と基本的技術を習得し、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスや在宅ケアシステムがどのように活用されているかについて、看護援助の実践の中から学ぶ。							
到達目標							
1.在宅療養者とその家族への看護を理解できる。 1)在宅療養者(以下、療養者)及び家族の特性を健康レベル、発達段階、生活背景から理解する。 2)療養者、および、家族の健康状態や生活状況から看護上の課題を明らかにし、援助計画を立案・実施・評価する。 2.地域の人々の生活を支援する社会資源とその活用方法を理解できる。 1)対象者が利用している社会資源の内容について説明できる。 2)対象者に必要な社会資源について説明できる。 3)在宅療養生活を支える保健・医療・福祉の多職種が協働する意義を説明できる。 4)対象者及び家族の健康問題解決のために行われている関係機関との連携方法を説明できる。							
授業の方法							
臨地実習(訪問看護ステーションをはじめとする在宅看護機関において、訪問看護師に同行し、在宅看護の実際を学ぶ)、学内実習(実習オリエンテーション、学内演習、学内での報告会による学びの共有とまとめ)を行う。							
ICT活用							
視聴覚教材を用いて、初日の学内日に訪問看護の実際について、イメージを促進する。							
実務経験のある教員の教育内容							

看護師・保健師の国家資格をもち、医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所での実務経験を活用して指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習中、および、実習最終日に面接によりフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	詳細は実習要項を参照すること		
担当教員			
第2回			
担当教員			
第3回			
担当教員			
第4回			
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学習状況と態度、毎日の記録内容、レポートから総合的に評価する。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。	

その他	0	特になし。
教科書		
1年次・2年次・3年次で使用した教科書を用いる。		
参考文献		
実習開始時に紹介する。		
履修条件・留意事項等		
本科目を履修するには、「在宅看護概論」「在宅看護・介護システム論」「家族看護学」「在宅看護援助論Ⅰ」「在宅看護援助論Ⅱ」の科目の単位取得が必要である。		
備考欄		
体調管理を行い、既習の内容を復習して臨んでください。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 在宅看護論					
科目名		家族看護学				ナンバリング	3618
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「看護の対象となる人々とコミュニケーション能力を活用して円滑な関係を構築し、対象理解を深める能力を身につけている(知識・技能)」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている(知識・技能)」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのあり方と看護師の役割を理解できている(知識・技能)」に関連し、家族看護、及び、家族看護学の歴史、家族看護理論・モデルの概要を理解し、ライフステージ別の家族看護のプロセスの基礎を学ぶ科目である。家族看護学の基礎・地域看護学の基礎・在宅看護学の展開Ⅰ・在宅看護学の展開Ⅱ・地域包括ケアシステム論と関連し、地域・在宅看護論実習等の専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
家族看護学に関する基礎(家族看護の概念、看護モデル)を学び、家族をひとつの単位として看護する意義の理解、家族自らが健康課題を達成し、家族のセルフケア機能を向上させる看護について学習。							
到達目標							
1.看護の対象としての家族の特性を理解できる 2.家族をひとつの単位として捉える意義を理解できる 3.家族看護理論・モデルの概要を理解できる 4.ジェノグラム・エコマップを描くことができる 5.家族看護のプロセスを理解できる 6.家族のライフステージ別の看護について理解できる							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で進める。 理解度を確認するために毎回の講義において課題を示し、学生自身が学んだ内容について記述する。 毎回の講義で、学生が記述したコメントシートを活用し、授業を振り返り、疑問の解決を図る。							
ICT活用							
視聴覚教材を用いて家族アセスメントの実際を学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

医療機関・訪問看護ステーション・介護保険事業所における実践内容を活かした講義資料、および、地域看護専門看護師としての地域における活動経験を活かした講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義中に質問・意見に対する返答を行い、学びの共有ができるようなフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 家族看護学とは 1) 家族看護学の発展と動向 2) 家族の定義, 及び, 家族看護の定義 2. 家族とは何か 1) 我が国の家族の変遷 2) 看護の対象としての家族 3) 家族の形態(かたち) 4) 家族の機能	テキストのp.3-15, 34-45を読む(60分)	講義資料、テキストを用いて復習する(90分)
担当教員			
第2回	5) 家族の構造 6) 家族の意思決定 7) 家族の生活と地域社会との関係 8) ジェノグラムとエコマップ <課題①:ジェノグラムとエコマップ>	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(90分)
担当教員			
第3回	<課題①のフィードバック> 3. 看護学における家族の理解 1) 健康な家族 2) 機能している家族の構造 3) 家族のセルフケア機能	前回の講義資料、テキストp.31-33を読む(60分)	講義資料とテキストを用いて復習する(90分)
担当教員			
第4回	4. 家族看護学の基本概念 1) 家族看護学の概念枠組 2) 看護の目的と対象 3) 1単位としての家族 4) 家族を理解する場 5) 看護者の姿勢	前回の講義資料を読む(60分)	講義資料とテキストを復習する(120分)
担当教員			

第5回	5. 家族を理解するための理論・モデル 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 3) 家族ストレス対処理論 4) フリードマン家族アセスメントモデル 5) カルガリー家族アセスメントモデル 6) 家族エンパワーメントモデル 7) 鈴木・渡辺の家族アセスメントモデル	前回の講義資料, テキストp.98-100を読む (60分)	講義資料とテキストを用いて復習する (120分)
担当教員			
第6回	< 確認テスト①フィードバック> 6. 家族看護過程 (1) 1) 家族看護の展開 2) 家族アセスメントの構造 3) 情報収集とアセスメント 4) ニーズと介入の判断 5) 家族看護計画 6) 家族看護計画の評価	前回の講義資料を読む (60分)	講義資料とテキストを用いて復習する (120分)
担当教員			
第7回	7. 家族看護過程(2) [ゲストスピーカー 川村真澄先生(家族支援看護専門看護師)] 課題① レポート「家族看護の実際を学んで」	前回の講義資料を読む (60分)	資料をもとに講義内容を復習する (120分)
担当教員			
第8回	< 4～7: 確認テスト② (20分) / 確認テスト②フィードバック> 8. まとめ / 課題② レポート「家族看護学を学んで」	前回までの講義資料、テキストの該当部分を読む (60分)	全ての講義資料、及び、配布資料、テキストを復習する (120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題 (2回: 各20%), 授業への参加態度、及び、コメントシートの記載内容 (20%) により評価する。	
その他	40	確認テスト (2回: 各20%) により評価する。	
教科書			

家族看護学 理論と実践 第5版 鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子 日本看護協会出版会 2020

参考文献

講義内で提示する。

履修条件・留意事項等

テキストでの予習をして臨むこと。評価物に不正行為があった場合は、D判定となることがある。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 在宅看護論					
科目名		在宅看護学援助論Ⅱ				ナンバリング	3615
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小橋 拓真、鹿内 あずさ						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している(知識・技能).」に関連し, 疾病や障がいを抱えながらも, 在宅でその人らしい生活を支援するための生活援助技術や基本的な医療的ケア技術, 在宅看護課程を学ぶ科目である。「在宅看護学概論」, 「在宅看護学援助論Ⅰ」, 「家族看護学」, 「地域包括ケアシステム論」と関連し, 「在宅看護学実習」等の専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
在宅療養者と家族が必要としている在宅看護における基本的技術について理解し, 在宅療養者と家族がその人らしく在宅療養を送るための看護技術を主体的に習得する。							
到達目標							
1. 在宅療養者が必要としている生活援助について考察できる。 2. 在宅療養者が必要としている医療的ケアについて理解できたことを発言できる。 3. 在宅療養者の家族が必要としている生活援助について考察できる。 4. 在宅療養者の家族が必要としている医療的ケアについて考察できる。 5. 在宅療養者と家族に必要な在宅看護技術を異なる疾患の事例に対して実施できる。							
授業の方法							
PowerPointと配布印刷物・視聴覚教材(DVD)を用いた講義形式とグループでの演習を行う。講義で学んだ知識をもとにグループ演習を行う。グループ演習では, 在宅看護技術, 在宅の事例を用いたグループワーク, 発表を行う。毎回の講義, 及び演習において課題を示し, 学生自身が学んだ内容について確認する。							
ICT活用							
Google classroomを用いて訪問看護者のマナーや訪問看護の援助場面の映像を視聴し, 視覚的に看護師の態度をイメージできるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経外科、及び、精神科特殊疾患病棟に計5年間の勤務経験を活かして講義を行う(小橋)。
腎センターのICU病棟、整形外科・内科病棟に計5年間の勤務経験、及び、訪問看護ステーションにおける計5年間の経験を活かして講義を行う(鹿内)。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに提出した振り返りシートをもとに、フィードバックし、学びを共有し、自己学習に活かせるようにする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 訪問看護の基本的態度と面接技術について【講義】(鹿内) 1) 在宅看護場面におけるコミュニケーション技術 2) 在宅看護における看護者に求められる態度	○教科書の関連する内容を読む ○以下を復習する 在宅看護学概論, 在宅看護学援助論 I (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第2回	2.呼吸に関する在宅看護技術(在宅人工呼吸療法)【講義】(小橋) 1) 呼吸を案案にするための看護とは 2) 在宅人工呼吸療法(TPPV/NPPV), 在宅酸素療法(HOT)についての手技や看護 3) 在宅における気管内吸引についての手技や看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第3回	3.在宅療養者と家族に対する看護過程【講義】(小橋) 1) アセスメント/療養上の課題 / 全体像 / 看護計画 事例1「在宅における難病療養者と家族」配布 事例2「在宅における小児療養者と家族」配布	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料, 教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第4回	4.在宅における呼吸ケア(NPPV・TPPV・HOT)【演習】(小橋・鹿内) ※フリップ・レスピロニクス 1)在宅における呼吸ケアで利用される機器の使い方と呼吸ケアの看護について	○在宅看護援助論Ⅱの第2回講義内容を復習する. ○提示した事例を読み込む (90分)	○演習で学んだ内容と技術演習の自己評価をする. ○在宅看護学援助論Ⅰの復習をした上で, 事例の看護過程に取り組む (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第5回	5.栄養に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)食べることへの看護とは 2)在宅における経口摂取の援助方法について 3)在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法における看護	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第6回	6.在宅における栄養のケア(在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法)【演習】(小橋・鹿内) 1)胃ろうカテーテルの構造について,経管栄養法の手技と看護について 2)CVポートの構造や,中心静脈栄養の手技と看護について 3)経口摂取で使用される自助具について	○在宅看護援助論Ⅱ第5回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する. (90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第7回	<確認テスト①:第1回～第6回> 7.清潔に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)清潔への援助が必要な療養者とは 2)在宅における清潔を保つための援助技術	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.在宅における清潔のケア【演習】(小橋・鹿内) 1)在宅における清潔援助に利用する物品の工夫(ケリーパッド,シャワーボトル)について 2)清潔援助で使用される福祉用具の使い方について	○在宅看護援助論Ⅱ第7回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する. (90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第9回	<確認テスト①のフィードバック> 9.排泄に関する在宅看護技術【講義】(小橋) 1)排泄への援助が必要な療養者とは 2)在宅における排泄援助(導尿・留置カテーテル・人工肛門)について 3)排泄に関する福祉用具について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を復習する(60分). ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分).
担当教員	小橋 拓真		
第10回	10.在宅における排泄ケア(人工肛門造設者への援助)【演習】(小橋・鹿内) 1)人工肛門のモデルを用いて,パウチ交換の方法について	○在宅看護援助論Ⅱ第9回の講義内容を復習する. ○演習内容について,目的・方法・手順・留意点について学習する. (90分)	○演習で学んだ内容を整理し,技術演習の自己評価を行う(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		

第11回	11.在宅における薬物療法【講義】(小橋) 1)薬物療法の必要な療養者とは 2)在宅における服薬管理,疼痛管理の看護について 3)インスリン自己注射をしている療養者の看護について	○教科書の関連する内容を読む (90分)	○講義資料,教科書の内容を 復習する(60分)
担当教員	小橋 拓真		
第12回	12.在宅看護におけるリスクマネジメント【講義】(小橋・鹿内) ゲストスピーカー樋口 秋緒 先生 1) 病院とは異なる在宅でのリスクとは何か 2) 療養者が安全・安楽に生活するためのリスク管理の重要性 3) 療養者に必要な医療者としてのリスク管理の実際 [課題レポート①:受講した内容を振り返り,在宅看護のリスクマネジメントについてレポート提出]	○これまでの在宅看護援助論Ⅱの講義や演習内容を復習し,事例の看護過程に取り組む. (90分)	○講義資料,教科書の内容を 復習する(60分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第13回	<確認テスト②:第7回～第12回> 13.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について,各自で進めた看護過程を持ち寄り,グループディスカッションを行う.	○これまでの在宅看護援助論Ⅱの講義や演習内容を復習し,事例の看護過程に取り組む. (90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し,提出する. (90分)
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第14回	<確認テスト②のフィードバック> 14.在宅療養者と家族に対する看護過程【演習】(小橋・鹿内) 1)事例について,グループディスカッションで,共有した内容を発表する. 【2事例 提出】※原則,提出期限延長は認めない 受講後,事例1「在宅における難病療養者と家族」提出 受講後,事例2「在宅における小児療養者と家族」提出	○在宅看護学援助論Ⅰを復習する. ○教科書の関連する内容を読む (90分)	○グループ内でディスカッションした看護過程を修正し,提出する. (90分) ○小テストでできなかった箇所を復習する(60分).
担当教員	鹿内 あずさ、小橋 拓真		
第15回	<課題(事例1・事例2)の提出> 15.在宅における人生の最終段階における看護と意思決定支援【講義】(鹿内) 1)在宅看護における意思決定支援・人生の最終段階における支援 2)アドバンス ケア プランニング(ACP)とは 3)在宅看護における課題 / まとめ [課題レポート②:受講した内容を振り返り,在宅療養者と家族を支えるためにどのような看護が大切かについてレポート提出]	○在宅看護学援助論Ⅰの復習 ○教科書の関連する内容を読む (60分) ○在宅看護援助論Ⅱの講義・演習内容を復習する. (120分)	在宅看護学援助論Ⅰの講義資料や教科書の内容を復習する(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○確認テスト2回:50%(各25%) ○看護過程2事例:30%(各15%) ○課題レポート2回:10%(各5%) ○出席を含む講義・演習への参加態度および,コメントシートの記載:10%	

その他	0	なし
教科書		
①在宅看護学講座, スーディ神崎和代(監修), ナカニシヤ出版 ②写真でわかる訪問看護アドバンス訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ!, 押川真喜子, インターメディカ ③医療福祉総合ガイドブック 2022年度版/NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会, 医学書院		
参考文献		
適宜, 示す.		
履修条件・留意事項等		
・評価物において, 不正行為が認められた場合, D判定になることがある.		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 看護の統合と実践					
科目名		リスクマネジメント論				ナンバリング	4661
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考・判断力により、その解決に向けて行動することができる」に関連する科目である。とくに対象のもつ健康課題から生じる療養生活における危険に気づき、予防すること学ぶ科目である。各領域の「看護学援助論」や「看護マネジメント論」に関連する科目であり、各領域の「臨地実習」につながる科目である。							
授業の概要							
医療や看護において日常的に起こりうる可能性がある医療上のリスクを認識し、予防するために必要な行動と、医療安全に向けた組織体制について理解する。また、保健医療福祉における個人情報保護や守秘義務、倫理的配慮に基づいた情報管理について理解する							
到達目標							
1. 医療や看護におけるリスク(誤薬、転倒・転落、院内感染、針刺し事故、放射線被爆など)、およびその予防方法について説明できる。 2. 医療事故の発生時の対応、発生後の分析評価について説明できる 3. 医療事故の予防に向けて、組織における医療安全対策について説明できる 4. 安全な医療環境の形成に向けて、医療事故に伴う看護職の法的責任について説明できる 5. 看護実践に伴う情報のセキュリティについて、包括的にあげることができる							
授業の方法							
PowerPointを用いた講義と個人ワークによる演習を実施する。							
ICT活用							
Google Classroomにより出席の確認、課題の提出を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

看護師としての勤務経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学生からの質問に対しWeb上での回答、もしくは授業内で解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【概論】医療におけるリスクと安全対策 人間としてのリスク～ヒューマンエラー～ 医療安全における看護師の役割と法的責任	教科書の序章と第1章を読んで くる(90分)	日常生活の中で、自分に起きているヒューマンエラーをまとめる(90分)
担当教員			
第2回	【医療・看護におけるリスク】診療の補助に関連するリスク(チューブ管理、薬剤に関連する事故、医療機器に関連する事故)	教科書の第2章と第3章を読んでくる(90分)	講義で取り上げた医療事故の中から、自分が起こしそうな医療事故を選び、その理由をまとめておく(90分)
担当教員			
第3回	【医療・看護におけるリスク】療養上の世話に関連するリスク(転倒・転落、食事に関連する事故、入浴に関連する事故)	教科書の第4章を読んでくる(90分)	講義で取り上げた医療事故の中から、自分が起こしそうな医療事故を選び、その理由をまとめておく(90分)
担当教員			
第4回	【医療・看護における安全対策】危険予知トレーニング(KYT)と医療事故の分析(事故発生時の対応、発生後の分析と評価)	事前に配布する資料を読んでくる。(90分)	KYTを通して気が付いた、自分の危険予知の傾向について記述、期限までに提出する。(90分)
担当教員			

第5回	【医療者のリスク】医療現場で共通して起こるリスク(患者間違い、多重課題)と医療安全におけるコミュニケーションの重要性	教科書の第5章と第6章を読んでもくる(90分)	多重課題に対する自己の対策をまとめておく(90分))
担当教員			
第6回	【医療・看護におけるリスク】業務上のリスク(職業感染、薬剤や放射線の暴露、ハラスメント)情報に関連するリスク(個人情報の取り扱い、情報に関する倫理、情報開示)	教科書の第7章を読んでもくる(90分)	講義で取り上げた医療事故の中から、自分が起こしそうな医療事故を選び、その理由をまとめておく(90分)
担当教員			
第7回	【医療者の安全対策】個人への対策(ワクチン接種、健康管理)と、組織的な対策(医療安全に向けた組織体制)	教科書の第8章を読んでもくる(90分)	医療者としての自分の健康管理についてまとめておく(90分)
担当教員			
第8回	【ケーススタディ】事例を用いて実践的な医療安全の考え方を学ぶ	事前に配布する資料を読んでもくる。(90分))	医療安全に関するレポート課題を期限までに提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第2,3,5,6,7回:確認テスト各10点×5回=50点 第4回:KYTワーク:25点 第8回:医療安全に関連するレポート課題:25点	
その他	0		
教科書			

医学書院「系統看護学講座 統合分野 医療安全（第4版）看護の統合と実践②」川村治子（著）

参考文献

必要時、授業内で提示する。

履修条件・留意事項等

毎回のよう授業内課題がありますので、欠席しないようにしてください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能					
科目名		看護栄養学				ナンバリング	2342
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松本 信子						
授業の位置づけ							
看護の対象者が、病気の治療に伴うセルフケアを行うために必要な栄養・食事療法を行うための基本的な知識を学び専門科目の基礎となる。ディプロマ・ポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
ケアの現場において、看護ケアの立場から患者の栄養状態の把握など、栄養ケアマネジメントのシステムを理解し、看護師の役割を習得する。病気の治療のための栄養・食事療法を理解し、疾患と栄養・食事の関わりを学ぶ。							
到達目標							
・栄養学の基本である栄養素とその働きを説明できる。 ・栄養状態の評価に必要な基本的な指標、臨床検査値、身体測定などについて説明できる。 ・栄養補給法の概略について説明できる。 ・主な疾患と栄養学的対策との関連を理解し説明できる。 ・学生自らの基礎代謝量を知り、推定エネルギー必要量を算出できる。							
授業の方法							
パワーポイントと教科書、配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。							
ICT活用							
Googleクラスルームを使用し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

医療機関にて、管理栄養士として臨床に携わった経験を活かし、チーム医療での役割・栄養管理のあり方など実際に基づいて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事後学習ノートにコメントを添えて返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要と到達目標を説明する。 病院食の概要：一般食、治療食、検査食、食形態について 病院食における適切な食事の条件	教科書により病院給食の意義と種類を学習し、授業に備える。(60分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員			
第2回	栄養補給法と補給ルート:経腸栄養法、静脈栄養法とそれぞれの合併症と必要栄養量の求め方について	経腸栄養、静脈栄養について教科書を読み授業に備える。(60分)	食事療法の意義についてまとめる。(120分)教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。
担当教員			
第3回	代謝性疾患の栄養・食事療法 糖尿病の食事療法	糖尿病の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(60分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第4回	循環器疾患の栄養・食事療法 動脈硬化の危険因子と生活習慣病の発症 高血圧症、心疾患、脳血管疾患の病態に応じた食事療法	循環器疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(60分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			

第5回	腎疾患の栄養・食事療法 慢性腎臓病、腎不全、人工透析の病期に応じた食事療法	腎臓疾患の食事療法について、教科書を読み授業に備える。(60分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第6回	消化器疾患の栄養・食事療法 消化性潰瘍、炎症性腸疾患の病態に応じた栄養・食事療法	胃・腸疾患について、教科書を読み授業に備える。(60分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第7回	消化器疾患の栄養・食事療法 肝臓病の病態に応じた栄養・食事療法	肝臓病について、教科書を読み授業に備える。(60分)	教科書や講義の内容をまとめて学習ノートを作成する。(120分)
担当教員			
第8回	術前後の栄養管理 消化管術前後の栄養・食事療法の留意点 確認テスト及び授業のまとめ	術前後の栄養管理について、教科書を読み授業に備える。(120分)	教科書や講義の内容をまとめて復習する。(60分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト 50% 事後学習ノート 30% 授業への参加度 20%	
その他	0		
教科書			

系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ 医学書院

参考文献

履修条件・留意事項等

この授業を履修することで、病院の栄養管理について関心を深めて下さい。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅰ				ナンバリング	2330
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	下岡 良典						
授業の位置づけ							
「生理学」と「解剖学」を基礎知識として、疾病のなりたちと治療を学習する。 「病態治療学Ⅰ」①呼吸器②循環器病学③糖尿病代謝内分泌④血液学の4分野からなる。 看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけ、看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を得るための知識を習得する。							
授業の概要							
日、医療・医学に求められているものは、高齢化社会に突入した現在では非常に複雑かつ多様化しつつあるが、内科学は、看護学を学ぶ学生にとって広いが最も大切な領域である。まず、患者さんから病歴を聞くことから始まり、いろいろな疾病に表われる症状を知り、なぜその疾患に特徴的な症状が出現するのか、すなわち、その病態生理を理解することが重要である。ついで、診断のために応用される各種の臨床検査、画像診断、さらには、疾患ごとに選択される適切な薬物療法、食事療法、注射・輸液療法などを学ばなければならない							
到達目標							
1. 生体の基本的解剖・生理を理解する 2. 病的変化から疾病に至る過程を理解する。 3. 内科的疾病の看護を可能とする知識・技術・態度を理解する。							
授業の方法							
講義用プリントおよびスライドによる講義を行います。講義の最後に知識の確認を行います。 課題はGoogle classroomで行います。							
ICT活用							
都度アナウンス							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床で経験した症例もまじえて講義します。

課題に対するフィードバックの方法

4分野の最後に課題(選択問題)があります。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	呼吸器病学(1) 呼吸器の解剖・生理。肺・気管支の基本的構造。胸部写真と胸部CTの見方。スパイロメーターのみかたと解釈。血液ガス分析のみかた。	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第2回	呼吸器病学(2) 呼吸不全の病態と治療 閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患の病態・特徴・診断・治療について	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第3回	呼吸器病学(3) 呼吸器感染症(ウイルス 細菌 多剤耐性菌 マイコプラズマ 結核菌 真菌 クラミジア)肺炎の特徴。誤嚥性肺炎の特徴。肺癌 原発性肺癌の分類・特徴・治療、転移性肺癌。	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第4回	呼吸器病学(4) 肺循環障害 心臓と肺の関係、肺塞栓。 その他の呼吸器疾患 外来で遭遇する肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、過換気など	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第5回	循環器病学(1) 心臓の解剖と生理 心臓の基本的構造(冠動脈、刺激伝導系、大循環と肺循環) 心電図の基本	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第6回	循環器病学(2) 代表的な不整脈①	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第7回	循環器病学(3) 代表的な不整脈②とペースメーカー 心不全の病態と治療	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第8回	循環器病学(4) 虚血性心疾患 弁膜症と心筋疾患	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第9回	循環器病学(5) 先天性心疾患・心筋炎と心膜炎・大動脈疾患 末梢動脈疾患	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第10回	糖尿病代謝内分泌学(1) 糖尿病・糖尿病の合併症 脂質代謝異常症	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			

第11回	糖尿病代謝内分泌学(2) 代表的な内分泌疾患① 下垂体・甲状腺	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第12回	糖尿病代謝内分泌学(2) 代表的な内分泌疾患② 副腎・腎	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第13回	血液病学(1) 血液の成分と機能 血型と輸血	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第14回	血液病学(2) 赤血球の異常	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
第15回	血液病学(3) 白血球の異常 凝固系の異常	テキストの該当箇所を一読してください。＜30分＞	講義内容を振り返り、テキストの内容を合わせて知識を整理して下さい。＜30分＞
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席点 60点(1コマ4点) 課題 40点	

その他	0	
教科書		
成人看護援助論の教科書と同じ		
参考文献		
病気が見える2 循環器 病気が見える3 糖尿病代謝内分泌 病気が見える4 呼吸器 病気が見える5 血液		
履修条件・留意事項等		
留意事項等 この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件である。単位が修得不可の場合は実習は受けない		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅱ				ナンバリング	2331
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横山 佳世、菅原 美保、津村 宣彦						
授業の位置づけ							
本科目は看護学科のディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「学修への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につける」と特に関係がある。 女性と新生児および小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また女性のライフスタイル におけるそれぞれの時期における性機能の変化や異常を修得、および新生児および小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「小児看護学の展開Ⅰ」へ繋ぐ科目である。							
授業の概要							
周産期の問題点から新生児疾患の病態と治療に始まり、小児の主な消化器疾患、呼吸器疾患、先天性心疾患、血液疾患、小児がん、神経・筋疾患、腎臓疾患、成長障害、糖尿病、先天性代謝障害、免疫・アレルギー疾患、感染症などの病態と治療について学修する。							
到達目標							
【女性・周産期】 ・人間の性と生殖生理、性機能についての基本的な知識を学び、妊娠、分娩、産褥の機序と各期の正常経過の維持のしくみについて、さらにその異常経過の病因を説明できる ・女性のライフサイクルにおける、性機能の変化や異常と各期に罹患しやすい疾患の病因・治療などを説明できる 【小児】 ・子どもの身体について解剖・生理的側面の特徴を理解し、異常や障害が起こるメカニズムを説明できる ・子どもに特有な疾患の病因、病態、症状、治療、検査について理解し、説明できる							
授業の方法							
授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材などを用いた講義形式とする。							
ICT活用							
双方型授業 (Google classroomを利用したミニテスト、レスポンスカード) 自主学習支援 (e-ラーニング「今日の臨床サポート」)の活用、Google classroomを利用したレポート・課題提出、資料提供、予習課題の提示)							
実務経験のある教員の教育内容							

津村は産婦人科での臨床経験や知識を活かした講義を行う。
横山・菅原は小児科・NICUでの臨床経験や知識を活かした講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスカードを利用し、毎回の講義中における質問・意見については、丁寧に返答し、学びを共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 女性生殖器の構造と機能および女性のライフサイクルについて	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第2回	妊娠成立の機序および胎児・胎盤の発育について:月経周期、排卵、受精、着床、黄体、胎盤の働きなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第3回	異常妊娠について:流産、感染症、ハイリスク妊娠、胎盤異常など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第4回	正常分娩・産褥および産科検査法について:陣痛発来から出産および産褥まで、超音波検査、羊水検査、出生前診断、胎児胎盤機能検査など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		

第5回	異常分娩について:陣痛異常、産道異常、胎位・胎児異常、産科ショックなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第6回	婦人科検査および月経異常・性感染症、避妊法など:内分泌検査、不妊検査、不育症など産婦人科に関連した検査法、性感染症の疫学とその防止対策、避妊法のメリット・デメリット、月経異常および薬物治療について	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第7回	婦人科疾患について:良性疾患(子宮筋腫、子宮内膜症など)および悪性腫瘍	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第8回	確認テスト①:日本の産婦人科医療の抱えている問題および授業の把握度をテストで評価し、その解説をする。	参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	津村 宣彦		
第9回	小児の消化器疾患・腎疾患・内分泌疾患:口唇裂・口蓋裂、ヒルシュスプリング病、ロタウイルス感染症、潰瘍性大腸炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、1型糖尿病など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	横山 佳世		
第10回	小児の循環器疾患・神経疾患:心室中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病、てんかん、熱性けいれん、筋ジストロフィーなど	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		

第11回	小児の呼吸器疾患・感染症:急性気管支炎、急性細気管支炎、肺炎、学校感染症(麻疹・風疹・水痘・ムンプス・インフルエンザなど) 確認テスト②	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第12回	小児の血液腫瘍疾患:小児の免疫、急性白血病(リンパ性・骨髄性)・悪性リンパ腫・脳腫瘍など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	横山 佳世		
第13回	小児のアレルギー疾患・耳鼻科疾患・小児救急:食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、中耳炎、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大、外傷、熱傷、誤飲など	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	菅原 美保		
第14回	ハイリスク新生児・先天疾患・発達障害:新生児仮死、新生児黄疸、呼吸窮迫症候群、ダウン症候群、18トリソミー、13トリソミー、自閉症、学習障害など 確認テスト③	e-ラーニング・参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	横山 佳世		
第15回	確認テスト④とまとめ:小児の健康障害についての理解をテストで確認し、解説を行う	参考書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)。	質問や感想をGoogle formで提出する。講義の内容確認と得られた知識および理解度をノートにまとめる(60分間程度)。
担当教員	横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内容に関する確認テストを実施する 確認テスト①(50%) 確認テスト②(10%) 確認テスト③(10%) 確認テスト④(26%) 小児分野講義終了時にミニテストを4回実施する(4%)	

その他	0	
教科書		
系統看護学講座成人看護学 (9) 女性生殖器第15版/末岡浩他/医学書院 系統看護学講座母性看護学 (2) 母性看護学各論第14版/森恵美他/医学書院 ナーシング・グラフィカ小児看護学 (3) 小児の疾患と看護第3版/中村友彦他編/メディカ出版		
参考文献		
看護学テキストNiCE 小児看護学 I, II 第4版/二宮啓子, 今野美紀/ 南江堂 病気がみえる vol.15 小児科/医療情報科学研究所編/ メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
評価対象物に不正行為が認められた場合は単位習得を認めない。他学生の学びを妨げる行為は慎み、講義中の私語は厳禁である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進					
科目名		看護病態治療学Ⅲ				ナンバリング	2332
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、榎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
本科目は、専門基礎科目の中で外科治療の対象となる疾患を取り扱う。そのため、人体の構造と機能を学ぶ「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体機能学Ⅰ・Ⅱ」などと連携している。また、疾病の成り立ちと回復の促進を学ぶ「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」及び「病理学」とは相互に関連する。そして、専門科目の「臨床看護技術」や「成人看護の展開Ⅱ」などの基礎となる科目である。DP「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
健康状態やその変化に応じた看護に必要な専門知識を習得するため、臨床で遭遇する頻度の高い代表的な疾病の病態生理、診断のための臨床検査・評価、治療までを系統立てて理解する。本科目では外科治療に着目して、消化器疾患、乳腺疾患、皮膚科疾患、耳鼻科疾患、眼科疾患、口腔外科疾患、運動器・整形外科疾患を学ぶ。							
到達目標							
1) 外科治療の種類と分類、身体機能の障害や問題に応じた治療方法を説明することができる 2) 手術に対する生体の反応と合併症について説明することができる 3) 手術の対象となる疾患の病態について説明することができる 4) 手術の対象となる主要な疾病の処置と管理方法を説明することができる							
授業の方法							
パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める 課題、レポート、理解度確認テストを行う							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

外科治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 1.外科治療の概要 1) 外科治療とその対象となる疾患 2) 手術の種類と分類 3) 身体機能の障害や問題に応じた治療	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法を確認する医学概論の外科的治療について復習する(90分)	第1回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	2.手術療法の実際 1) 麻酔導入と管理 2) 手術療法の流れと術中管理	麻酔管理と手術中管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第2回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	3.術前の身体評価と処置 1) 術前アセスメント 2) 術前処置	術前の身体評価と処置について教科書を読み知識を整理する(90分)	第3回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第4回	4.手術侵襲と合併症 1) 手術侵襲 2) 主要な合併症の理解	手術侵襲と合併症について教科書を読み知識を整理する(90分)	第4回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第5回	5. 外科的処置と創傷管理 ゲストスピーカーによる講話;創傷回復を促進するための援助と褥瘡処置の実際について説明する	外科的処置と創傷管理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第5回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第6回	6.手術の対象となる疾病と処置の理解 1) 消化器疾患;胃・食道 上部消化管検査および手術について、胃癌の手術を例に説明する	胃と食道の解剖・生理、胃がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第6回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第7回	2) 消化器疾患;大腸 下部消化管の検査および手術について、大腸癌を例に説明する ストーマ造設、消化管癌の転移についてふれる	大腸の解剖・生理、大腸がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第7回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第1～7回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第8回	3) 消化器疾患;肝・胆・膵 胆嚢炎を例に、胆道ドレナージ、腹腔鏡手術、動脈塞栓術について説明する 理解度確認テスト1	肝・胆・膵の解剖・生理、胆嚢炎の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第8回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第9回	4) 皮膚科疾患 ゲストスピーカーによる講話;主要な皮膚疾患の手術や処置、スキンケアについて説明する	皮膚の解剖・生理について教科書を読み知識を整理する(90分)	第9回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第10回	5) 眼科疾患 眼科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	眼の解剖・生理、白内障の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第10回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		

第11回	6) 口腔衛生 ゲストスピーカーによる講話; 口腔衛生管理に関する基礎的知識を説明する	歯の解剖・生理について人体の構造・機能の教科書を読み知識を整理する(90分)	第11回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第12回	7) 口腔外科疾患 口腔外科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する	口腔の解剖・生理、舌がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第12回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第13回	8) 運動器・整形外科疾患 整形外科の主要な疾患を例に、手術と術後処置について説明する	骨の解剖・生理、大腿骨頸部骨折の病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第13回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する 第8～13回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第14回	9) 耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科の主要な疾患を例に、手術や処置について説明する 理解度確認テスト2	耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖・生理、喉頭がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第14回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	榎本 常子		
第15回	10) 乳腺疾患 ゲストスピーカーによる講話; 乳腺の疾患について説明する 乳がんの診断、手術の種類と適応、処置や術後管理について、乳房再建術を例に説明する	乳房の解剖・生理、乳がんの病態と治療について教科書を読み知識を整理する(90分)	第15回目の学習内容を教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート	

その他	0	なし
教科書		
ナーシング・グラフィカ 成人看護学(4):周術期看護 メディカ 出版 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 第6版 医学書院 病気がみえるvol.1 消化器(第6版)メディックメディア 病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 メディックメディア		
参考文献		
講義の中で随時紹介する		
履修条件・留意事項等		
本科目の単位修得が無ければ、基礎看護学実習Ⅱの履修は不可 課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 成人看護学					
科目名		成人看護学の展開 I				ナンバリング	3516
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	尾形 裕子、桎本 常子、古沢 幸子						
授業の位置づけ							
成人看護学は成人看護学の基礎、展開Ⅰ～Ⅲ、臨地実習の科目で構成される。成人看護学の展開Ⅰは成人期にある人と家族を対象に慢性期疾患とがん疾患に焦点をあてた看護に関連する理論と援助を学ぶ科目であり、「成人看護学の基礎」を基盤として「看護病態治療学Ⅰ・Ⅱ」や「保健医療福祉行政論」「チーム医療概論」などの科目と連携し「成人看護学の展開Ⅲ」「成人看護学実習」に繋がる。DP「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている。(知識・技能)」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかた」と看護師の役割を理解できている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。							
授業の概要							
成人期の対象の特徴と健康問題、看護援助について学ぶ。健康状態による看護の特徴では慢性期に、疾病ではがん疾患に焦点をあてて看護に関連する理論と援助を学ぶ。慢性・不可逆的健康課題を有する人・家族が、療養生活を継続できるようセルフケア能力を高め、その人にとって最適な健康状態にできるような援助を学ぶ。がんの特殊性とがん罹患により脅かされる人々の命および生活について理解を深め、がんの病期、化学療法・放射線療法・緩和ケアなどの治療に応じた援助について学ぶ。							
到達目標							
1. 慢性期看護及び慢性疾患やその治療の特徴を述べることができる 2. 慢性期にある人々の身体的、心理的、社会的特徴を述べることができる 3. 慢性疾患をもつ人々とその家族に対する看護活動と、看護師の役割について考え論じることができる 4. がんの疫学をもとに、がんを取り巻く医療・看護の動向を述べることができる 5. がん治療に対する看護、がん医療における看護師の役割を説明できる							
授業の方法							
パワーポイントと配信した講義資料を用いて講義形式で進める 事例の援助についてグループワークとグループ発表を行う 課題、レポート、理解度確認テストを行う コメントシートを活用して個別に授業の振り返りを行い、その内容をクラスで共有する							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

慢性疾患及びがん疾患患者の治療を行う病院において看護師として勤務した経験を活かして、臨床に基づいた講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

事前課題、理解度確認テストの回答と解説は授業の中でフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	慢性期看護の特徴と理解 慢性疾患及び治療の特徴の理解	シラバスを読み、到達目標、授業方法、成績評価方法などを確認する 「成人看護学の基礎」の講義内容から、医療の動向と経過別看護の特徴を復習する(90分)	慢性期看護の特徴、慢性疾患及び治療の特徴について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第2回	成人期及び慢性期にある人の特徴の理解 成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴の理解	成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴について教科書を読み知識を整理する(90分)	成人期及び慢性期にある人とその家族の看護援助の特徴について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第3回	高血圧の患者への看護 1.血圧異常と評価及び治療の理解 2.高血圧の患者および家族への援助	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書を読み知識を整理する(90分)	血圧異常と評価及び治療、高血圧の患者および家族への援助について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第4回	高血圧の患者への看護 3.高血圧のある人の事例の解釈 4.事例の援助の理解	前回の授業内に提示された課題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講義資料を用いて復習する 第1～4回目の講義内容を復習し、理解度確認テストを受ける準備をする(90分)
担当教員	尾形 裕子		

第5回	糖尿病の患者への看護 1.糖尿病の疾病の成り立ちと治療の理解 理解度確認テスト1	糖尿病の疾病の成り立ちと治療 について教科書を読み知識を 整理する(90分)	糖尿病の疾病の成り立ちと治療 について教科書・講義資料を用 いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第6回	糖尿病の患者への看護 2.糖尿病患者及び家族への援助 3.糖尿病のある人の事例の解釈	糖尿病患者及び家族への援助 について教科書を読み知識を 整理する(90分)	糖尿病患者及び家族への援助 について教科書・講義資料を用 いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第7回	糖尿病の患者への看護 4.事例の援助の理解	前回の授業内に提示された課 題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講 義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	証本 常子		
第8回	慢性腎臓病患者への看護 1.慢性腎臓病の疾病の成り立ちと治療の理解	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと 治療について教科書を読み知 識を整理する(90分)	慢性腎臓病の疾病の成り立ちと 治療について教科書・講義資料 を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第9回	慢性腎臓病患者への看護 2.慢性腎臓病患者及び家族への援助 3.透析治療を受ける人への事例の解釈	慢性腎臓病患者及び家族への 援助について教科書を読み知 識を整理する(90分)	慢性腎臓病患者及び家族への 援助について教科書・講義資料 を用いて復習する 第5～9回目の講義内容を復習 し、理解度確認テストを受ける準 備をする(90分)
担当教員	古沢 幸子		
第10回	慢性腎臓病患者への看護 4.事例の援助の理解 理解度確認テスト2	前回の授業内に提示された課 題を行う(90分)	事例の援助について教科書・講 義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	古沢 幸子		

第11回	がんに罹患した人とその家族への看護 1.がん看護学総論	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん医療の現在と看護、がんの病態と臨床経過について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第12回	がんに罹患した人とその家族への看護 2.がん薬物療法と看護	がん薬物療法の看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん薬物療法の看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第13回	がんに罹患した人とその家族への看護 3.がん放射線療法と看護 がん放射線療法と看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん放射線療法の看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん放射線療法の看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第14回	がんに罹患した人とその家族への看護 4.がん患者の療養支援 がん患者の療養支援の実際に関するゲストスピーカーの講話	がん患者の療養支援について教科書を読み知識を整理する(90分)	がん患者の療養支援について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
第15回	がんに罹患した人とその家族への看護 5.造血幹細胞移植と看護 造血幹細胞移植と看護の実際に関するゲストスピーカーの講話	造血幹細胞移植と看護について教科書を読み知識を整理する(90分)	造血幹細胞移植と看護について教科書・講義資料を用いて復習する(90分)
担当教員	尾形 裕子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認テスト・課題・レポート	

その他	0	なし
教科書		
成人看護学 慢性期看護論 第3版 ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第3版 医学書院 病気がみえるvol.2循環器(第5版) vol.3 糖尿病・代謝・内分泌(第5版) vol.8腎・泌尿器(第3版) メディックメディア		
参考文献		
本科目の単位修得が無ければ、成人看護学実習の履修は不可 課題・レポートの提出遅延、未提出は減点する		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 母性看護学					
科目名		母性看護学の基礎				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小堀 ゆかり						
授業の位置づけ							
本学科のDP、「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」、「多様なケア環境に適した保健医療チームのあり方と看護師の役割を理解できる」に関連した母性看護学領域の科目である。 母性看護学の対象である「女性」を理解し、女性の周産期および各ライフサイクルにおける心身の変化、取り巻く社会・環境について学習する科目であり、「母性看護学の展開Ⅰ」「母性看護学の展開Ⅱ」「母性看護学実習」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
女性のライフサイクル全般を通して母性とは何かを理解し、個、家族、集団の視点から、その特徴を学ぶ。また、女性のライフステージ各期の身体的、心理社会的特徴と健康促進の支援から子孫創造への役割と母子保健統計や政策に関してマクロな視点から学習する。母性看護で活用されている理論や概念を中心に展開する。							
到達目標							
1. 母性看護の概念、母性看護の意義・役割がわかる。 2. 母性意識の発達過程、母親役割行動の取得過程がわかる。 3. 母性看護の変遷、統計、制度などから、母子保健をマクロ的な視点から捉えることができる。 4. 親子・家族関係の形成過程及び家族の役割についてわかる。 5. 女性のライフサイクル各期における健康状態の特徴と看護について説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウトを用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テスト、およびミニレポートを作成してもらう。							
ICT活用							
課題の提出とフィードバックは、一部Google classroomを活用して行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

助産師としての臨床経験、知識を活かし講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、レポートのコメントを講義内、若しくはGoogle classroomを活用して返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 母性看護学の概念 ・母性とは ・母性看護学とは	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第2回	母性看護学の基盤となる理論と概念 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・セクシュアリティ ・アタッチメント	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第3回	根拠に基づく母性看護の実践 ・根拠に基づく実践とは ・エビデンスの必要性	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第4回	性を取りまく社会と現状 ・社会的・心理的特性からみた性 ・統計からみる性を取りまく社会の現状	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		

第5回	母子保健統計の理解 ・日本の人口、出生に関する概観 ・日本の母子保健水準と統計値 ・諸外国における母子保健統計と日本の比較 ・少子化の背景	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第6回	母子にかかわる法律 ・母子にかかわる法律 ・母子保健施策・事業 ・母子保健にかかわる課題と政策	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第7回	周産期医療体制 ・周産期医療体制の改善が必要となった背景 ・周産期医療体制 ・日本の周産期医療の課題	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第8回	性と生殖をめぐると倫理的課題 ・性と生殖をめぐると倫理的課題とは ・ARTをめぐると倫理的課題 ・専門職に求められる倫理性	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第9回	国際化のなかでの母性看護の役割 ・異なる文化的背景をもつ女性への看護 ・母子保健委における国際協力	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第10回	これまでの講義まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所を目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み、 理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		

第11回	女性のライフサイクルと健康支援 ・女性のライフサイクルの全体像 ・思春期の女性の特徴 ・思春期女性の健康問題と看護 ・レポート課題提示	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと。講義内 容を振り返り、提示された課題レ ポートを作成すること。(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第12回	女性のライフサイクルと健康支援 ・成熟期女性の特徴 ・成熟期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第13回	女性のライフサイクルと健康支援 ・更年期の女性の特徴 ・更年期の女性の健康問題と看護	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第14回	女性のライフサイクルと健康支援 ・老年期の女性の特徴 ・老年期の女性の健康問題	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
第15回	これまでの講義内容まとめ ・知識確認テスト	教科書の該当箇所に目を通して おくこと(90分)	講義資料とともに教科書を読み 、理解を深めておくこと(90分)
担当教員	小堀 ゆかり		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	2回の小テスト(90%)、レポート課題(10%)	

その他	0	
教科書		
齋藤いずみ 他編集:看護学テキストNICE 母性看護学 I 改訂第3版 南江堂		
参考文献		
講義内で適宜提示する。		
履修条件・留意事項等		
レポート課題、小テストにより総合的に評価する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 精神看護学					
科目名		精神看護学の基礎				ナンバリング	3590
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	井上 仁美						
授業の位置づけ							
本科目は、DPの「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」に関連した科目である。 精神看護学実習の履修要件であり、精神看護学の展開Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目である。 また、メンタルヘルス、心理学概論を基礎とし、看護病態治療学Ⅳと関連する科目である。							
授業の概要							
本科目では、精神看護の基本概念となる心の健康の概念、心の機能と発達、危機や災害時における精神の健康とマネジメント、ストレスへの対処と疾病予防、精神科医療と保健・福祉の歴史の変遷や法律、精神看護の倫理、精神保健行政、精神保健医療の場で行われる集団活動および精神看護の現状と課題を学ぶ。また、認知行動療法の基礎としての自らの自動思考に気づき、自己を振り返ることで自己理解・他者理解について学習する。							
到達目標							
1. 精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識について説明することができる。 2. 精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面から説明することができる。 3. 自己や他者のメンタルヘルスについての理解を深め、自分自身のメンタルヘルスについてコントロールする方法を説明することができる							
授業の方法							
授業ではテキストや配布するレジュメを用いてパワーポイントで説明する。また、ディスカッションを適宜行いながら、自分の考えを課題レポートとして提出する。学んだ知識の定着を促進するため、ほぼ毎回、確認テストを実施する。また、Google Classroom (以下、GC) で指定した準備学習または事後学習についてGCに提出することで学びを深める。							
ICT活用							
学んだ知識の定着を促進するため、適宜、GoogleClassroom (以下、GC) で指定した準備学習または事後学習についてGCに提出する。							
実務経験のある教員の教育内容							

本科目は精神保健看護で看護師として実務経験のある教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

GCで提出された課題や授業時間中に行う確認テストは授業時間中またはGCでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 精神看護学の基本的な考え方 こころの健康・不健康の概念や精神障がい定義をふまえながら、精神看護学の基本的考え方や心構えを学ぶ。 また、精神障害を説明するさまざまなモデル(考え方)と精神障害のとらえ方を学習する。	テキスト② P. 1～4、62～63をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第2回	心のはたらきと精神の健康・障害【確認テスト①;1回目の内容】 人格、気質、自我、感情、認知など人間の心のはたらきについて学ぶ。 さまざまなストレスに対処するシステムとしての防衛機制と、ライフサイクル各期における発達課題など人格の発達に関する代表的な理論について学習する。	テキスト①P.45～97をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第3回	脳の構造と認知機能【確認テスト②;2回目の内容】 脳の構造と認知機能、認知機能の神経基盤について学習する。 脳の学習をとおして、薬物療法の基本を理解する。	テキスト①P.28～45をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第4回	心の危機とストレス【確認テスト③;3回目の内容】 生体システムとしてのストレス反応と恒常性の維持、睡眠(サーカディアンリズム)との関連性について学習する。 ストレスへの対処行動と危機理論、カプランの予防概念を理解できる。 生きる力と強さに着目したレジリエンス、リカバリ、ストレンダスなどの概念について理解できる。”	テキスト①P.6～17、150～170をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			

第5回	家族におけるメンタルヘルス【確認テスト④;4回目の内容】 システムとしての家族と家族病理について理解できる。 家庭内暴力や児童虐待などの事例から、high EE・lowEE家族や家族ホメオスーシス、共依存、世代間連鎖などの概念を学習し、家族はケアが必要なクライアントであることを理解できる。	テキスト①P.99～120、173～177、182～185をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第6回	職場・学校等におけるメンタルヘルス【確認テスト⑤;5回目の内容】 職場や学校における精神保健問題の概要について理解するとともに、ハラスメントやいじめが精神健康に与える影響とその支援について理解できる。また、LGBTなどの性の多様性、自宅でのひきこもり問題などについて考えることができる。	テキスト①P.122～141、178～181、186～195をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第7回	嗜癖の問題【確認テスト⑥;6回目の内容】 嗜癖の問題が心身および日常生活や家族に及ぼす影響について理解できるとともに嗜癖問題から回復するための支援の方法を学ぶ。	テキスト①P.202～195をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第8回	精神障害と治療・看護の歴史【確認テスト⑦;7回目の内容】 精神疾患・障害とその治療・看護の歴史的経緯を理解できる。特に、日本における精神医学・治療の歴史的経緯と地域・文化との結びつきを学び、社会的視点から精神障がいを理解することができる。優生保護法など、過去の歴史から現在まで続いている課題について学習し、その問題点について考えることができる。	テキスト①P.230～249をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第9回	精神障害と法制度【確認テスト⑧;8回目の内容】 精神障がいをもつ人々を対象とする法律の目的と位置づけおよび法制度の変遷について理解することができる。精神科における入院制度と触法精神障害者についての問題や人権擁護と生活支援の点からの課題について考えることができる。	テキスト①P.249～279をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第10回	精神障害をもつ人の地域生活支援【確認テスト⑨;9回目の内容】 精神障害をもつ人の地域での生活と制度について学ぶとともに、地域生活を支えるさまざまなサービスとその基盤となる考え方を理解できる。特に、今後は地域包括ケアシステムのなかに精神看護が位置づけられることを理解するとともに、地域とのつながりを深め、関係者と協働する方法を説明できる。災害時の心のケアについて学習する。	テキスト①P.12～13、②356～396、404～411、467～479をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			

第11回	身体疾患と精神看護【確認テスト⑩;10回目の内容】 脳とからだの関係、身体疾患と精神症状の関係性について理解するとともに、リエゾン精神看護の役割と仕事について理解することができる。 がん、産後うつなど、ストレスや生活環境による精神障害について学習する。	テキスト①P.428～442をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第12回	集団力動論【確認テスト⑪;11回目の内容】 集団力動(グループダイナミクス)の歴史的発展段階を理解し、グループを活用した実践について知ることができる。 社会生活技能訓練(SST)や当事者によるセルフヘルプグループ、当事者研究などについて理解するとともに集団療法の治療的意義について理解できる。	テキスト②P.173～177、186～187をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第13回	看護職のメンタルヘルス【確認テスト⑫;12回目の内容】 対人関係職が体験する感情労働とメンタルヘルスへの影響を理解することができる。新人看護師の職場不適応、燃え尽き症候群、うつなどの問題と、ストレスマネジメントの方法を理解することができる。	テキスト①P.18～25をよく読んでノートにまとめる(90分)。GCに資料をUPするので、よく読んでおくこと(90分)。	レジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第14回	援助的人間関係を築く【確認テスト⑬;13回目の内容】 ケアの原則を理解するとともに患者－看護師関係における治療的援助関係の発展段階とそのコミュニケーションの技法を理解できる。	テキスト②P.173～177、194～215をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	テキストおよびレジュメで復習し、次回の講義に実施する確認テストの準備をする(90分)。
担当教員			
第15回	精神科看護における倫理【確認テスト⑭;14回目の内容】 「精神科看護倫理綱領」や倫理基準について理解するとともに精神看護実践における倫理的課題と求められる倫理について理解できる。アドボカシー、自己決定、エンパワメントなどの概念について説明できる。	テキスト①P.4～20をよく読んで、ノートにまとめる(90分)。	レポート課題を作成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト70% 5点×14回 講義開始時または終了前に実施する ・レポート課題の提出30% 10点×3回【具体的な課題と提出期限はそのつど提示する】 ※レポートは引用文献・参考文献を必ず明記すること。 毎回、その回のテキストによる予習または復習を手書きで作成した場合は、内容と量で1～3点を加点する(GCに提出すること)	

その他	0	
教科書		
岩崎弥生、渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 第6版 メヂカルフレンド社 岩崎弥生、渡邊博幸 編:新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第6版 メヂカルフレンド社		
参考文献		
適宜、GCに提示する。		
履修条件・留意事項等		
私語は厳禁とします。私語をしている学生には直接注意します。遅刻・欠席をすると確認テストが受けられず、その回のテストが0点となりますので、欠席・遅刻をしないようにしてください。遅刻は20分を超えると欠席になります。また、遅刻は3回で1回の欠席となりますので注意してください。途中退室して15分以上経過しても入室しない場合は「早退」とします。体調不良時を除き、退席しないようにしてください。60点に満たない場合はDH判定となり、再試の対象となります。		
備考欄		
レポートやテスト時に不正行為があった場合は、単位を認定しない。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護ヘルスアセスメント(2組)				ナンバリング	3406
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけること(知識・技能)を目指す科目である。また、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけること(思考・判断・表現)を目標とする科目である。人の健康状態について観察から得た情報をアセスメントするという看護過程の思考の第一段階の科目でもある。							
授業の概要							
看護の立場で、人間を身体・心理・社会的存在として、健康状態をアセスメントすることの意義と重要性を理解し、ヘルスアセスメントができる能力を養う。また、全人的・多角的に集めた情報から、対象者のその人らしさを把握し、適切な看護ケアに結びつけていく態度を養う。特にフィジカルアセスメントでは、既習の解剖生理の知識を踏まえ、バイタルサインズ測定、フィジカルイグザミネーションなどフィジカルアセスメントに必要な基本技術演習を行いながら、日常生活行動の視点から看護としての観察技術を学ぶ。							
到達目標							
1. ヘルスアセスメントの意義と目的を述べることができる 2. バイタルサインズについての意味を理解し、対象者に測定ができる。 3. フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能の基礎をふまえ、フィジカルアセスメントの基本技法を実施できる 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、身体的・心理的・社会的側面から看護ケアに関連づけることができる							
授業の方法							
1. 人体構造学・人体機能学を基本としたワークブックを自分で作成し、演習時に使用する。 2. 板書、パワーポイントと配布印刷物にて講義と演習を並行して行う。 3. 演習は要項を配布し、演習の目的、進め方を熟読し、e-ラーニング(ナーシングスキル)も活用する 4. 演習ではシミュレーターモデルも活用し、様々な健康障害に関する情報収集を体験する 5. 演習時は、グループ内で患者役・看護師役を交互に経験し、得られた情報を正確に記録し、評価を行う。							
ICT活用							
ナーシングスキル(e-ラーニング)							
実務経験のある教員の教育内容							

病院にて看護師として、循環器外科の経験があり、この経験を活かし、授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物にコメントを記載し、講義時に返却と説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コース説明 【講義】 ①看護におけるヘルスアセスメントを学修する意義を述べることができる。 ・看護ヘルスアセスメントの目的、用いられる基本的手技、看護の役割について述べるができる。 ②一般状態のアセスメント ・バイタルサインズとは何かを述べるができる。	シラバスを読む 教科書の該当箇所を読む。(60分)	教科書、講義資料を再度読む。(90分)
担当教員	木口 幸子		
第2回	【講義】 ・体温・呼吸・脈拍・血圧・意識状態について、それらの意味と測定する目的を述べるができる。	教科書の該当箇所を読む。(60分)	・講義資料、教科書を再度読む。 ・ワークブックに取り掛かる。(90分)
担当教員	木口 幸子		
第3回	【演習】バイタルサインズ測定 ・体温・呼吸・脈拍・血圧について、正確に測定できる。 ・グループ内で患者役・看護師役を交代で実施する。	・教科書、講義資料を再度読む。 ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参(90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出(90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第4回	【演習】バイタルサインズ測定 ・体温・呼吸・脈拍・血圧について、正確に測定できる。 ・グループ内で患者役・看護師役を交代で実施する。	・教科書、講義資料を再度読む。 ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参(90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出(90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第5回	【講義】 :系統別のアセスメント <呼吸・循環> ・呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む ・ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第6回	【演習】 ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第7回	【演習】 ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第8回	【講義】 :系統別のアセスメント <消化器系> ・消化器系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む ・ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第9回	【演習】 :系統別のアセスメント ・消化器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第10回	【演習】 :系統別のアセスメント ・消化器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第11回	【講義】:系統別のアセスメント ＜筋・骨格系＞ ・筋肉・骨格系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む 。ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第12回	【講義】:系統別のアセスメント ・感覚器系・神経系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む 。ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子		
第13回	【演習】:系統別のアセスメント ＜筋・骨格系＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む 。ナースィングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第14回	【演習】:系統別のアセスメント ＜感覚器系・神経系＞ ・感覚器系、神経系のアセスメントの実施が出来る。	・教科書、講義資料を再度読む 。ナースィングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第15回	まとめ・試験	これまでの講義資料を再度読む (90分)	無し
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物50% 試験(筆記)50%	

その他	0	
教科書		
①ナースングラフィカ基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, コミュニケーション／看護の展開／ヘルスアセスメント. メディカ出版. ②深井喜代子編:新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, メヂカルフレンド社		
参考文献		
①人体構造学及び人体機能学にて使用した教科書・講義資料 ②日常生活行動からみるヘルスアセスメント(日本看護協会出版会)		
履修条件・留意事項等		
提出物について、盗用が認められた場合は、D判定となる場合がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 基礎看護学					
科目名		看護ヘルスアセスメント(1組)				ナンバリング	3406
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、竹之内 優美、渡辺 一代、赤坂 浩子						
授業の位置づけ							
看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけること(知識・技能)を目指す科目である。また、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を身につけること(思考・判断・表現)を目標とする科目である。人の健康状態について観察から得た情報をアセスメントするという看護過程の思考の第一段階の科目でもある。							
授業の概要							
看護の立場で、人間を身体・心理・社会的存在として、健康状態をアセスメントすることの意義と重要性を理解し、ヘルスアセスメントができる能力を養う。また、全人的・多角的に集めた情報から、対象者のその人らしさを把握し、適切な看護ケアに結びつけていく態度を養う。特にフィジカルアセスメントでは、既習の解剖生理の知識を踏まえ、バイタルサインズ測定、フィジカルイグザミネーションなどフィジカルアセスメントに必要な基本技術演習を行いながら、日常生活行動の視点から看護としての観察技術を学ぶ。							
到達目標							
1. ヘルスアセスメントの意義と目的を述べることができる 2. バイタルサインズについての意味を理解し、対象者に測定ができる。 3. フィジカルアセスメントに必要な人体の構造と機能の基礎をふまえ、フィジカルアセスメントの基本技法を実施できる 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、身体的・心理的・社会的側面から看護ケアに関連づけることができる							
授業の方法							
1. 人体構造学・人体機能学を基本としたワークブックを自分で作成し、演習時に使用する。 2. 板書、パワーポイントと配布印刷物にて講義と演習を並行して行う。 3. 演習は要項を配布し、演習の目的、進め方を熟読し、e-ラーニング(ナーシングスキル)も活用する 4. 演習ではシミュレーターモデルも活用し、様々な健康障害に関する情報収集を体験する 5. 演習時は、グループ内で患者役・看護師役を交互に経験し、得られた情報を正確に記録し、評価を行う。							
ICT活用							
ナーシングスキル(e-ラーニング)							
実務経験のある教員の教育内容							

病院にて看護師として、循環器外科の経験があり、この経験を活かし、授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題にコメントを記載し、講義時に返却と説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コース説明 【講義】 ①看護におけるヘルスアセスメントを学修する意義を述べることができる。 ・看護ヘルスアセスメントの目的、用いられる基本的手技、看護の役割について述べるができる。 ②一般状態のアセスメント ・バイタルサインズとは何かを述べるができる。	シラバスを読む 教科書の該当箇所を読む。(60分)	教科書、講義資料を再度読む。(90分)
担当教員	木口 幸子		
第2回	【講義】 ・体温・呼吸・脈拍・血圧・意識状態について、それらの意味と測定する目的を述べるができる。	教科書の該当箇所を読む。(60分)	・講義資料、教科書を再度読む。 ・ワークブックに取り掛かる。(90分)
担当教員	木口 幸子		
第3回	【演習】バイタルサインズ測定 ・体温・呼吸・脈拍・血圧について、正確に測定できる。 ・グループ内で患者役・看護師役を交代で実施する。	・教科書、講義資料を再度読む。 ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参(90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出(90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第4回	【演習】バイタルサインズ測定 ・体温・呼吸・脈拍・血圧について、正確に測定できる。 ・グループ内で患者役・看護師役を交代で実施する。	・教科書、講義資料を再度読む。 ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参(90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出(90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第5回	【講義】 :系統別のアセスメント <呼吸・循環> ・呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む ・ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第6回	【演習】 ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第7回	【演習】 ・呼吸器系、循環器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第8回	【講義】 :系統別のアセスメント <消化器系> ・消化器系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む ・ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第9回	【演習】 :系統別のアセスメント ・消化器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第10回	【演習】 :系統別のアセスメント ・消化器系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む ・ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		

第11回	【講義】:系統別のアセスメント ＜筋・骨格系＞ ・筋肉・骨格系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む 。ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第12回	【講義】:系統別のアセスメント ・感覚器系・神経系のフィジカルアセスメントを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。 (60分)	・講義資料、教科書を再度読む 。ワークブックに取り掛かる。 (90分)
担当教員	木口 幸子		
第13回	【演習】:系統別のアセスメント ＜筋・骨格系＞ ・筋・骨格系のアセスメントの実施ができる。	・教科書、講義資料を再度読む 。ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第14回	【演習】:系統別のアセスメント ＜感覚器系・神経系＞ ・感覚器系、神経系のアセスメントの実施が出来る。	・教科書、講義資料を再度読む 。ナースングスキル、他動画を視聴する。 ・ワークブック持参 (90分)	・実施後のワークブックに取り掛かり、提出 (90分)
担当教員	木口 幸子、佐々木 律子、赤坂 浩子、竹之内 優美、渡辺 一代		
第15回	まとめ・試験	これまでの講義資料を再度読む (90分)	無し
担当教員	木口 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物50% 試験(筆記)50%	

その他	0	
教科書		
①ナースングラフィカ基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，コミュニケーション／看護の展開／ヘルスアセスメント. メディカ出版. ②深井喜代子編:新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社		
参考文献		
①人体構造学及び人体機能学にて使用した教科書・講義資料 ②日常生活行動からみるヘルスアセスメント(日本看護協会出版会)		
履修条件・留意事項等		
提出物について、盗用等が認められた場合は、D判定となる場合がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 老年看護学					
科目名		老年看護学の基礎				ナンバリング	3530
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
本科目は、老年看護学に位置づけられ、ディプロマポリシーの「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身に着けている」と「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームの在り方と看護師の役割をできている」につながるため、老年看護学を学ぶ上で必要な基礎的知識を修得する。本科目は「高齢者の特徴と老年者を取り巻く環境」と「老年看護学における哲学的基盤」によって構成される。「生涯発達論」と「保健医療福祉行政論」での学習を参考にし、本科目を学び、これに積み重ねる形で「老年看護学の展開Ⅰ・Ⅱ」によって具体的な支援を学び、「老年看護学実習」につなげる。							
授業の概要							
本科目は、老年看護や老年期を生きる高齢者を理解し、生活を整えるための援助を実践するために必要な基礎知識を修得する。学習内容は、老年期の成り立ちと高齢者の特徴、そして地域包括ケアシステムや高齢者のニーズを叶えるための多職種連携実践を含めた高齢者を取り巻く環境、さらに高齢者のQOLや持てる力と、生活を整えるための援助を考えられるようにディスカッションを用いて修得する。							
到達目標							
・高齢者の特徴と高齢者を取り巻く環境が説明できる。 ・老年看護学における哲学的基盤が説明できる。 ＊各講義の目標は、学習内容中に示す。							
授業の方法							
授業の方法は、講義形式と学生同士のディスカッションを活用して行う。教材は、教科書と担当教員が作成した資料である。本科目は、理解度を確認するための小テスト7回と確認テスト1回、個人課題2回の提出によって評価する。							
ICT活用							
Google classroomを活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

総合的な病院において看護師として約7年間勤務した経験の中で、高齢者を対象にケアを行った経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・提出された小テストと確認テスト、課題レポートの解説を、集団に対して行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(講義・GW) 内容:老年看護学における老年看護学の基礎の位置づけとシラバスの説明 行動目標:ガイダンス内容を理解し、自らが学習すべき内容と学習課題が説明できる。 GW:どのような看護師になりたいのか、そのために必要なことは何か	シラバスを熟読する。生涯発達論の老年期を復習してノートにまとめる(90分)。	学習すべき内容と現時点での自らの看護観をまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	老いるということ、老いを生きるということ(講義・GW) 内容:「老いる」こと、高齢者の定義、発達と成熟 行動目標:加齢と老化・加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化、発達課題などにおける高齢者の特徴が説明できる。 GW:教科書①p9表1-2高齢者の疾患の特徴の具体例を考える。 ①小テスト	教科書①第1章を熟読する(90分)。	高齢者の特徴をまとめる(90分)。
担当教員			
第3回	超高齢社会と社会保障(講義・GW) 内容:統計的輪郭からみた高齢者の特徴、高齢社会における保健医療福祉の動向 行動目標:統計的な高齢者の特徴と介護保険制度の仕組みが説明できる。 GW:教科書①p29表2-1高齢者の自覚症状の特徴を考える。 ②小テスト	教科書①第2章p24～53を熟読する(90分)。	介護保険申請のプロセスをまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	超高齢社会と社会保障(講義・GW) 内容:高齢者の権利擁護 行動目標:高齢者の権利擁護が説明できる。 GW:p57表2-12高齢者への虐待の特徴を考える。 ③小テスト	教科書①第2章p54～69を熟読する(90分)。	高齢者虐待と権利擁護の概要をまとめる(90分)。
担当教員			

第5回	老年看護のなりたちⅠ(講義・GW) 内容: 老年看護学教育の発展と老年看護の定義と役割 行動目標: 老年看護学の定義と役割が説明できる。 GW: 老年看護の特徴を考える。 ④小テスト	教科書①第3章p70～77を熟読する(90分)。	老年看護の定義と役割をまとめる(90分)。
担当教員			
第6回	老年看護のなりたちⅡ(講義・GW) 内容: 老年看護における理論・概念、責務 行動目標: 老年看護における理論・概念、責務が説明できる。 GW: 教科書①p82表3-3高齢者のための国連原則の特徴を考える。 ⑤小テスト	教科書①第3章p78～83を熟読する(90分)。	老年看護における理論・概念と責務をまとめる(90分)。
担当教員			
第7回	生活・療養の場における看護(講義・GW) 内容: 高齢者とヘルスプロモーション・保健医療福祉施設および居住施設における看護、治療介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 行動目標: グループホームの特徴が説明できる。 GW: グループホームの特徴から高齢者にとってのメリット、デメリットを考える。 ⑥小テスト	教科書①第9章を熟読する(90分)。	地域密着型サービスをまとめる(90分)。
担当教員			
第8回	高齢者のリスクマネジメント(講義・GW) 内容: 高齢者と医療安全、救命救急と災害 行動目標: 高齢者特有のリスク要因や救急、災害時の看護師の役割が説明できる。 GW: 高齢者が災害に見舞われた際、食事で配慮すべきことを考える。 ⑦小テスト	教科書①第10章を熟読する(90分)。	災害フェーズと高齢者支援のポイントをまとめる(90分)。
担当教員			
第9回	確認テストと前半講義のまとめ(講義) 行動目標: 前半講義の理解度の確認ができる。	2回から8回の学習内容をまとめる(90分)。	理解が不足している学習内容をノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第10回	ICF(講義・GW) 内容: ICFモデルの目的、実践の意義 行動目標: ICFの概要が説明できる。 GW: ICFモデルの特徴を考える。	教科書②を熟読する(90分)。	課題①: 配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。
担当教員			

第11回	ICF (GW) GW: 事前課題を基にICF整理シートを作成する。 行動目標: ICF整理シートを完成することができる。 課題①: 事前学習を講義開始時に提出する。GWで完成させたICF整理シートを提出する。	課題①: 配布された事例を熟読してICF整理シートを作成する(90分)。	教科書③を熟読する(90分)。
担当教員			
第12回	生活行動モデル(講義・GW) 内容: 生活行動モデルの概要 行動目標: 生活行動モデルの特徴を説明できる。 GW: 生活行動モデルの特徴を考える。	教科書③ iv ～ xiを熟読する(90分)。	課題②教科書③p iv - v を800字以内でまとめる(90分)。
担当教員			
第13回	生活行動モデル (GW) GW: 高齢者のもてる力を具体的に考える。 行動目標: 高齢者の持てる力を具体的に説明することができる。 課題②提出	課題②教科書③p iv ～ v を800字以内でまとめる(90分)。	高齢者のもてる力を再確認する(90分)。
担当教員			
第14回	思考過程(講義・GW) 内容: 高齢者を支援する際の思考過程の特徴と実際 行動目標: 高齢者を支援する際の臨床判断の特徴が説明できる。 GW: 事前学習を基に、資料を完成させる。	事前配布資料を実施する(90分)。	事後学習資料を実施する(90分)。
担当教員			
第15回	全講義のふり返り 内容: 講義で学習したすべての内容を振り返る。 行動目標: 本講義の学習の振り返りができる。	本講義のプリントやノートを見直して整理する(90分)。	今までの学習成果をいつでも見返せるように整理する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト: 7回×5点＝35点 確認テスト: 1回×25点＝25点 課題①: 20点 課題②: 20点	

その他	0	
教科書		
① 北川公子ほか/系統看護学講座老年看護学/医学書院 ② 上田敏ほか/ICFの理解と活用 /きょうされん ③ 山田律子ほか/生活機能から見た老年看護過程＋病態・生活機能関連図/医学書院		
参考文献		
必要時講義中に提示する。		
履修条件・留意事項等		
私語、必要時以外の携帯の使用を禁止する。 学習は主体的に行う。 提出物と小テストは定期試験と同等に扱う。 欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。 遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 看護学科					
区分		専門科目 小児看護学					
科目名		小児看護学の基礎				ナンバリング	3550
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 洋子、菅原 美保、横山 佳世						
授業の位置づけ							
本科目は看護学の理論や科学的根拠に基づき、ディプロマポリシー「看護の専門知識を活用して健康の状態やその変化に応じて実践する能力を身につけている」「社会の一員としての責任を有し、専門職倫理観を基盤としたヒューマンケアの基本的な能力を身につけている」「多様なケア環境に適した保健医療福祉チームのありかたと看護師の役割を理解できている」「学習への主体性を有し、自律的な行動ができ専門職者として研鑽し続ける基本的な能力を身につけている」人材の育成に関係し、小児とその家族の健康的な生活を支援するための基礎的知識を獲得するための科目として位置づけられる。「小児看護の展開Ⅰ」「小児看護の展開Ⅱ」「看護病態治療学Ⅲ」「小児看護学実習」の基礎となる科目である。また、小児看護学健康障害論と関連する科目である。							
授業の概要							
小児の健康状態やその変化に応じた看護に必要な知識を習得するために、小児を取り巻く家族や社会の現状を理解しながら、発達段階別に形態的、機能的、心理的、社会的な成長と発達を学ぶ。さらに小児の基本的人権と小児看護倫理から小児の利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、小児の発達に応じた日常生活の世話やQOL、子どもの健康の保持増進、疾病の予防から小児看護の役割・機能を学ぶ。							
到達目標							
1. 小児の成長・発達の特徴について説明できる。 2. 子どもの権利について説明ができ、権利を擁護する看護援助について説明できる。 3. 母子保健の動向と母子の健康を支える社会資源、制度について説明できる。 4. 発達段階によって生じやすい小児期特有の健康問題の特徴と必要な看護について説明できる。 5. 特別な状況にある小児や家族、社会の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。 6. 成人移行期における治療継続や自分らしい生活実現のための看護を説明できる。 7. 小児と家族を対象とした小児看護の役割について説明できる。							
授業の方法							
授業方法はパワーポイントとハンドアウト、視聴覚教材(DVD)用いた講義形式とする。理解を深めるため小テストを実施する。第15回では小児看護の役割とこれからの課題についてグループワークを実施し互いの考えを共有する。また、適宜レポートおよび課題を提示する。							
ICT活用							
Google Classroomを活用して、レポート提出や準備学習・事後学習を行い自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

本講義は小児看護の豊富な実務経験がある教員が授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施した後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス シラバスに基づく科目の説明 小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目標と役割 3. 子どもの健康	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第2回	小児と家族の諸統計 1. わが国の人口構造 2. 出生と家族 3. 子どもの死亡	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第3回	子どもと家族を取り巻く社会 1. 子どもの権利・こども基本法 2. 児童福祉法・児童虐待防止法 3. 母子保健法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第4回	小児の成長と発達-1 1. 成長・発達の原則とその影響因子 2. 身体的な成長発達	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第5回	小児の成長と発達-2 1. 心理的・社会的な成長発達 2. 成長発達の評価法	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第6回	小児看護に関する理論 1. アタッチメント理論、2. 認知発達理論 3. 自我発達理論、4. セルフケア理論 等	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第7回	小児の生活習慣の自立とその看護-1 1. 子どもの生活習慣と自立支援 2. しつけとMalpractice	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第8回	小児の生活習慣の自立とその看護-2 1. 食行動の自立と支援 2. 排泄行動の自立と支援	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第9回	小児の生活習慣の自立とその看護-3 1. 睡眠の発達と支援 2. 清潔行動の発達と支援	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第10回	小児の生活習慣の自立とその看護-4 1. 思春期の特性と生活支援	教科書などで、事前に該当部分を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		

第11回	子どものヘルスプロモーション	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己 学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第12回	子どもの特性と事故 1. 子どもの病気への反応 2. 応急措置、救急蘇生法	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己 学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第13回	子どもと家族の健康問題に対する在宅での看護 1. 小児に対する外来看護・在宅看護 2. 障害を有する小児と家族に対する支援	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己 学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第14回	小児看護領域の専門性と活動 1. 小児看護専門看護師の役割	教科書などで、事前に該当部分 を予習する(60分間程度)	講義内容をまとめ、疑問点は自己 学習をすること。(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
第15回	試験とまとめ	これまでの講義・演習内容の復 習を行う(90分間程度)	確認試験で理解が不足していた 部分を振り返り、自己学習をす る(90分)
担当教員	菅原 美保、佐藤 洋子、横山 佳世		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	講義内での確認試験2回(50点×2回)	

その他	0	
教科書		
二宮啓子,今野美紀編集/看護学テキストNICE 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術/ 南江堂/2022年		
参考文献		
講義内で提示する。		
履修条件・留意事項等		
講義中は能動的な学修姿勢で臨むこと。 他学生の学びを妨げる行為は慎むこと。 講義中の私語は厳禁です。		
備考欄		